

特集 オープンキャンパス

“共に育む 山口大学”

人文学部

笑顔の絶えない研究室

人文学部	人文社会学科	地域歴史文化論コース	3年	原田 祥平
”	”	”	”	肥川 尚文
”	”	”	”	尼子 裕章

私たちの研究室

人文学部には人文社会学科と言語文化学科の二つの学科があります。人文社会学科は人間論・地域歴史文化論・社会情報論・博物文化論の四つのコースに分かれており、さらにそれぞれのコースの中でも様々な研究室に分かれています。私たちが所属している国史研究室は、地域歴史文化論コースの研究室の一つです。国史研究室では史料をとても大切にしており、史料に基づいた授業が色々行われています。また、この研究室では1年間のうちに楽しいイベントがたくさんあり、学生同士はもちろん先生方とも仲良くなり、いつも笑顔が絶えない研究室になっています。

数々の研究室行事

国史研究室独特の楽しいイベントを紹介します。この研究室のイベントの特徴といえば何と言って

も旅行の多さです。5月下旬には研究室全体で研究室旅行を行います。去年は2泊3日で壱岐と大宰府に行き、今年は淡路島と徳島に行ってきました。今年も歴史的遺跡を見て歩いたり、その土地の美味しいものも食べたりと本当に楽しい旅行になりました。また、古代・中世・近世のそれぞれのゼミごとに旅行があり、去年は古代が奈良、中世が京都、近世が岡山に行きました。今年行き先は検討中ですが海外旅行を計画しているゼミもあります。その他、8月には3泊4日で古文書合宿が行われ、みんなで勉強したり料理したり遊んだり本当に楽しく、みんなの

仲も一段と深まります。

最後に

大学生活は今までの生活に比べ自由な時間が多く、自分のやりたい事がたくさんできます。しかし、自分で時間を作り、行動しないとあっという間に時間は過ぎ去ってしまいます。人文学部では「生き方」や人間性を学ぶのにとっても役立つ授業がたくさん開講されているので、このような事も参考に、自ら時間を作り、自ら学び、自ら行動し、自由ある大学生活を楽しく、素晴らしいものにしていきましょう。



筆者（左から尼子さん、肥川さん、原田さん）



集合写真（人文棟中庭にて）



授業風景



私の大学生活

人文学部 人文社会学科 人間論コース 3年 市位 洋平

私が山口大学に入学して3年目になりますが、その間に様々なことがあり、そして、それらから多くのことを学びました。

毎日の授業

まず、毎日の授業ですが、これら一つとして同じものはないため、いつも新鮮な気持ちで受けられます。また、授業中は教員だけでなく他の学生の意見や研究の話の聞いたり、逆に自分で意見や研究を発表したりすることもあります。他人の考えを聞いて刺激を受けることは多いのですが、反面自分の考えを伝えることの難しさを痛感します。しかし、授業からは様々な知識が得られることは間違

いありません。

サークル活動

私はある文科系のサークルに入っており、週2・3回のペースで活動しています。活動では学部・学年に関係なく多くの人が集まり、普段の授業とは違うアットホームで和気あいあいとした雰囲気を楽しめます。また、時には休日にも集まり、一緒に遊びに行くこともあります。そして、授業で失敗して落ち込んでいるときなどに活動に参加すると、そんなことを忘れて大いに楽しめるので、いい気分転換にもなります。

全体を通して

そして、山口大学に来て最も良かったことは、授業にしてもサークルにしても、多種多様な人たちと出会えたことです。自分と同じ意見の人・違う意見の人、性格の違う人・同じ人、すんなり入学した人・紆余曲折の末入学した人、本当に多くの人がいて、多くの視点があり、その全てが自分の糧になります。もちろん、友人として付き合うことも多く、これまでに比べてとても親密な交友関係を築いています。私にとって、この山口大学に入って多くの知識と視点・友人を得たことは一生にわたって残る宝になるであろうと感じています。





私の大学生活

人文学部 言語文化学科 日本語文化論コース 3年 北野 渚

人文学部へようこそ

「人文学部って何を勉強しているの？」とよく聞かれますが、私は専門科目（日本語学・日本文学）はもちろん、教職科目、図書館司書、さらに人文社会学科の授業を受講しています。つまり、自分の興味とやる気さえあれば、色々なことが学べるのです。去年は書道の授業も受講し、何年かぶりに筆を手にしました。大学では自分で時間割を決めるので、興味のある分野をとことん追究するもよし、色々な授業を受けて興味を広げるもよしです。私は日本語学を専攻していますが、日本語学と一口に言っても、音韻・方言・日本語教育・語彙など、様々です。このように、「学びの機会」が多くあるのが、人文学部の魅力ではないかと思えます。日々日本語と向き合う中で見つけた、日本語の面白さや新しい発見には心が躍ります。そんなワクワクがたくさん詰まっているのが人文学部なのです。

おすすめ！寮生活

私は寮生活を送っています。入学当初は嫌々でしたが、今では自分でも驚くほど楽しんでます。大学の敷地内にあるので安全だし、

学部を問わず友達がたくさんできます。門限もなく、時間に拘束されない生活が送れます。そして一番のお勧め、それは寮食です。低カロリーで栄養も考えられている手作りの寮食は、食べなきゃ損！損！昼食は寮生でなくても食べることができ、友人も一度食べに来て以来、寮食のとりこになっています。

さて、少しばかり、寮生活のイメージが変わったのではないのでしょうか。試しに最初の1年を寮で過ごすのも良いと思います。ほら、寮生活が気になってきたでしょ！？

最後に・・・

大学生活は自分次第で変わります。大学生活を充実したものにするのも自分、そうでないものにしてしまうのも自分なのです。「時間をどう使うか？」これは日々、私が自分自身に問いかけていることです。自分でやりくりする大学生活、楽しいですよ。



授業風景

教育学部

私の夢

教育学部 学校教育教員養成課程 理科教育選修 3年 西村 侑子

小学生の時にすばらしい先生と出会うことができ、私は「先生になりたいな」という夢を持ち続けてきました。私が山口大学教育学部に進学したのは、その夢を実現させるためです。

私が所属している学校教育教員養成課程は、教員になるために必要な豊かな教養と高い専門性を身に付けるためのプログラムが充実しているように思います。その中でも、最もインパクトの強いプログラムが教育実習だと思います。

山口大学教育学部の教育実習は、附属の小・中学校で行う基本実習（3年生の前期に2週間、後期に3週間）と4年生になって県内の

公立学校で行う2週間の委託実習が基本となっています。3年生の私は、この内の前期の基本実習が終わったところです。

この実習では学ぶことがたくさんありました。授業とは教師だけで作るのではなく生徒とともに作り上げていくものということ、教師の生き生きとした姿が生徒たちの意欲に直結することなど、新しい発見がたくさんありました。授業実践以外にも、普段の生徒との関わり合いから学ぶことは、大学では決して得ることができない貴重な体験となりました。たった2週間の前期基本実習が終わったばかりですが、教育の奥の深さと

魅力をいっそう強く感じる事ができた2週間だったと思います。

この実習によって、教師になりたいという私の夢はさらに大きく膨らみました。私はこれまで、「教師は生徒への愛情、教育への熱意さえあれば大丈夫」と軽く考えていました。もちろんそれも大事ですが、私がこの実習によって学んだことは、「人を育てるためには教師としての基礎的な能力としっかりした技術を身につけなければならない」ということです。卒業までの1年半の間にいくらかでも身につけることができれば、私の大学生活はきっと充実したものになると思っています。



大学生活について

教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育コース 家政教育選修 2年 三宅 宏枝

大学生活の中で

高校生の時までは、受験勉強などが忙しくて、いろいろなことにチャレンジする時間の余裕が少なかったと思います。でも、この大学の4年間の中では、自分の自由な時間がたっぷりあるので、自分が学びたいならたくさんのことを学べるし、大学の先生に相談すれば、親身になっていろいろなことを教えてもらえます。他にも、自分の興味のあることに気づいたり、好きなことに打ち込んだり、もし今将来なりたいものが見つからず

に悩んでいても、自分のしたいことが見えてくるかもしれません。

授業

私の所属は、家政教育で家庭科の先生を養成するところです。最近の授業では調理実習をしています。みんなで和気あいあいとしています。でもその中で、もし自分が教壇に立って生徒に授業したら、火の取り扱い方などをしっかり伝えないといけないんだな、という視点をもって考えることが出来ます。

豊かな自然

山口大学はとても広く、キャンパス内にはたくさんの緑があり、周囲は山で囲まれていて本当に自然豊かなところですよ。私は県外から来たのですが、夏にアパートの前の田んぼで蛍を発見したときには、とても驚きました。そんな自然いっぱいの中で、自分の時間と向き合って学んでいければと思っています。



2年生の集合写真（前列右から2番目が筆者）

大学とは…

教育学部 健康科学教育課程 スポーツ健康科学コース 2年 山元 勇樹

スポ健とは

私の所属する教育学部スポーツ健康科学コース、通称「スポ健」は文字通りスポーツと健康について学ぶコースです。しかし、他大学の体育系の学部やコースとは一味違った特徴を持っています。それは、数多くの分野の中でも運動生理学・生化学を中心とした研究や授業が行われているということです。もちろんその他にもバイオメカニクス・健康運動処方論・スポーツ社会学・運動栄養学・陸上運動など様々な講義・実習・実技があり、大変充実しています。特に、2・3年次に行われる実習では、講義で学んだことを実際に確

認することができ、また、4年次に行われる卒論の練習にもなり非常にためになる授業のひとつです。これらの充実した授業を受け卒業された方々は、教師・公務員・一般企業・大学院などさまざまな分野で活躍されています。

秘 訣

大学は今までとは違い自由な時間が非常に多くなります。もしもこの自由な時間を無駄に過ごしていたならば、何ともしないことか…。充実した大学生活を送るためには、この自由な時間の過ごし方が鍵となります。私はこの自由な時間の多くを部活に使って

ます。私は陸上競技部に所属し、多くの仲間と共にそれぞれの目標に向かって頑張っています。部活をすることで、他の学部の人とも交流を持つことができ、また、先輩・後輩にも恵まれいろんな考えの人と会うことができます。

私のように自由な時間を部活に使うのもいいですが、部活以外にもサークル・バイト・勉強・遊びなど選択肢はたくさんあると思います。このことも大学の良さだと思えます。とにかく自分で考え、責任を持ち、自由な時間に自分のやりたいことをとことんやるのが充実した大学生活を送る秘訣だと思います。



山口市民選手権5000m（先頭が筆者）

経済学部

成長できるサークル活動

山口大学経済学部学生ゼミナール連合協議会 副会長 経済学部 3年 市原 万由美

主な活動

私は現在、山口大学経済学部学生ゼミナール連合協議会（通称：ゼミ連）という経済学部の生徒会的役割を担っているサークルに所属しています。このサークルでは、経済学部全学生が勉学に励み、充実した学生生活を送ることができるよう、お手伝いをしています。主な活動は、ゼミ内の親睦を深め、ゼミ同士の交流を目的とした年2回の「ソフトボール大会」、大学で学んでいることを他ゼミと討論しあう「学内討論大会」、4年生の卒業を祝って開催される「卒業記念パーティー」の企画・運営です。この他にも、中四国・全国規模で行われる討論大会の情報宣伝

や運営のお手伝いも行っています。

活動を通して

活動中、経済学部生や先生方、他大学の方々と接する機会が多くあり、色々な意見やアドバイスを頂くことができます。それらを如何に活動に活かしていくか、より良いものにするためにはどうしたら良いか等、企画・運営していくことの難しさを感じることも数多くありますが、参加者が楽しんでいる様子や行事が成功したときの達成感には私にとって貴重なものだと考えています。これらの経験一つ一つを通して、仲間との絆を感じ、また自分の成長を感じています。

これからのゼミ連

現在、行事を中心に活動を行っていますが行事の内容を充実していただくだけでなく、身近なところから経済学部に関わっていかうと考え、今年から花壇作りを始めました。まだ小さな花壇ですが、春にはチューリップが咲き、現在は（執筆時6月）は紫陽花もきれいに咲いています。きれいに咲いた花々を見て、ちょっとした会話や笑顔が増えたら良いと思っています。このように、今までの活動の充実を図りながら新たなことにもチャレンジを続け、成長していきたいと考えています。



レンコン連魂 !!



大学での部活動について

経済学部 経済法学科 2年 松岡 勇次郎

山口大学に入学し、体育会所属の硬式野球部に入部して1年が経ちました。何故野球部かという、幼い頃からいろんなスポーツをやり、高校では硬式野球をしてきた私ですが、野球には漠然と何かやり残した感覚があったため入部しました。

高校までの野球はどちらかと言えば、監督・コーチから言われたとおりに行動する「やらされる野球」でした。しかし、大学で新しい野球観が生まれました。山口大

学での野球は「考える野球」だったからです。指導者（監督）はいない、やるのは自分たち学生のみという状況で、どうすれば自分たちより強い大学に勝てるのか、部員同士お互いに考え意見しながら今後の野球方針を決め、自主的に練習するということが新鮮で、自分の中に新しい可能性が見つかる予感もしています。

大学生活で新しい自分を見つけるのもよし、将来の進路をより一層現実に近い近づけるのもよし、一人ひ

とりの考え方で様々な可能性が見えることでしょう。結果として大学での4年間で充実し、自分の力になればどのような形であれ成功だと思えます。私も残り2年半、学生生活で悔いが残らないように、野球では最大のやり残しであるリーグ制覇を目指し完全燃焼できるように、また2年後卒業する自分を見据え、勉強にも励むことができます。学生生活を送りたいと思います。

今のところ、私の学生生活は成功してると思えますよ。



硬式野球部集合写真（肩車をされているのが筆者）

新入生フレッシュマンセミナーについて

経済学部 1年 増田 めぐみ
 ” ” 高橋 沙智子

入学式

桜の花が満開の中、多くの不安と期待の中、おろしたてのスーツに身を包み入学式を迎えました。会場を埋め尽くすほどの人がいたのには驚きました。先生方のお話、応援団演舞、合唱部の演奏等式が進行するにつれ山大に入学した実感がわいてきました。式後会場を出ると、たくさんの部活やサークルの勧誘でまっすぐ歩けないほどでした。山大にはたくさんの部活やサークルがあるので、きっとあなたにあったものを見つけられると思います。

フレッシュマンセミナー 1日目

入学式の2日後、『フレッシュマンセミナー』がありました。簡単に説明すると、ゼミごとに分かれ親睦を深めようというものです(ゼミとは、興味のあるテーマを選び少人数で学んでいくものです)。入学式から少ししか経っておらず、友達のいない状況でゼミに行くのはとても不安でした。私たちのゼミではまず自己紹介をし、その後4グループに分かれ班活動をしました。その活動とは学校探検をし、班の担当場所の写真を撮り、どういう場所(施設)かをまとめて次の日に発表するというものでした。班で活動しながらいろんな話をし

ているうちに、次第に最初の不安な気持ちがなくなっていました。ちなみに、他のゼミではご当地プレゼン、ソフトボール、花見などをして親睦を深めたそうです。

フレッシュマンセミナー 2日目

午前中に昨日の学校探検をまとめ発表しましたが、ゼミ内の発表をどのように行えばいいか分からず緊張しました。午後はゼミ対抗のドッジボールでした。やる前は苦手だし、嫌だなと思っていましたが、始めてみるとだんだんとみんな本気になってきて、とても盛り上がり、みんなとも仲良くな

れました。ちなみに私たちのゼミは団結力があり、勝ち続けリーグ優勝しました。優勝チームは景品がもらえたので、頑張った甲斐があったなと思いました。

終わりに

フレッシュマンセミナーがあったおかげで、ゼミのみんなと仲良くなる事が出来ました。私たちもそうですが、ゼミの中で知り合った仲間はこれからの大学生活を共に過ごすような関係になるでしょう。みなさんぜひ山口大学に来てキャンパスライフを楽しみましょう。



筆者の高橋さん(左)と増田さん(右)

理 学 部

限られた時の狭間で

理学部 数理科学科 3年 上田 祐輝

時間よ止まれ

大学生活において、時間はとても大切なものです。

時をかける少女的に、時間が操れるならば問題ないのですが、どうも私はごく普通の大学生のようで。数ヶ月前には「時間がありすぎて困っちゃうなあ。あはは。」と、思っていたわけですが、今では「時間がなくて困っちゃうなあ。ひーん、ぐすん。」そんな風に悲しみに明け暮れております。

時間は止まらない

時間は有限なものです。にもかかわらず、大学生活はとても自由。

ここに、罫があるとは、大学に入った当初、まったく気づいておりませんでした。

勉学に励みつつ、ぐうたら過ごしていたらあっという間に時間が過ぎてしまい、オロオロと動揺しました。このように時間が過ぎ去った後に、気づいても遅いのです。

特に大学生活は、自分でスケジュールを組み、自分ですべてを管理しなくてはなりません。「なんとかなるだろう」と考えている間に、すべては終わってしまっているのです。

時間は有限なもの、そう気づくことが時間を有効活用する第一歩なのです。

はじまりの時

私たちはその限られた時間の中で、どう考え、どう行動するか、それを常に考えつつ、行動しなければなりません。そのためには、スケジュール管理は大切ですし、どんなに些細な時間、たとえばカップラーメンができるまでの3分であろうと、活用しなければならぬのです。

このような時間意識を持つことで、限られた大学生活の中で、大切な思い出、大切な記憶を得ることのできるきっかけになれば幸いです。





『～たい』が120%叶う大学ライフ

理学部 自然情報科学科 物理学講座 4年 柴崎 洋志

物理が勉強したい

大学というところは、自分の勉強したい分野に照準を合わせて深く掘り下げて学んでいく場です。したがって、高校のときにやっていた浅く広くの勉強とは全く質が異なります。

私の研究生生活の1日を例に挙げて説明いたしますと、午前9時に研究室へ。私は磁性体（簡単に言うと磁石）について研究しているので、まず研究室のメンバーと磁性についての勉強会をします。その後、先輩の車で遠出をして、そこで昼食タイム！午後からはひたすら自分の研究に没頭！そして、1日終了。ご覧の通り自分の専門としている学問ばかり勉強しています。研究室の先輩方も優しく接してくださり、毎日があっという

間に過ぎていきます。

サークル活動がしたい

私は体育会所属のオリエンテーリング部に入部しました。オリエンテーリングはよくオリエンテーションと間違えられやすいのですが正式に認められたスポーツです。競技内容としては手に持った地図とコンパスを片手に山の中を駆け回りタイムを競うものです。私達の同期は11人入部し、私が幹部だった3年生の頃は部全体で40人を越える大きな部になりました。大学のサークル・部活動は高校までと違い、顧問の指示で活動はせず、練習メニューや学園祭の出店、遠征計画・飲み会の開催などすべて自分たちで企画します。例えば、私たちは、富士山に合宿に行ったり、

体育会主催のスポーツマッチに参加しています。また、部活以外にも部のメンバーたちと集まりドライブやボーリング、飲み会をやったりしてとても楽しんでいます。

自由な生活がしたい

やはり、大学生になる1番の楽しみは一人暮らしですね。自由な勉強環境、そして生活環境。高校とは違い、『自分のやりたいこと』をする時間が十分に取れます。私はこの時間を利用して小遣い稼ぎのアルバイトを始めたり、沖縄や東京に旅行に行ったりしました。大学生活も残りわずか…。大学で出会った悪友達とたくさんの思い出を作るためにただ今、壮大な旅行計画を立案中です！





山大での新生活

理学部 物理・情報科学科 1年 常弘 拓弥

山大での新生活

山口大学に入学して間もない頃、僕は一人暮らしに苦労しました。特に料理関係はわからないことが多く、友達や親に聞いたり本で調べたりと大変でした。でも、そんな一人暮らしにもすぐに慣れることができました。

山大は緑に囲まれ、キャンパス内も雰囲気がとてもよく、環境のいい大学です。先日学校帰りに蛍を見た時は感動しました。また、山大には勉強やサークル活動をするのに最適な施設も整っています。

学部について

僕が所属する理学部は今年度から学科が変わり、数理科学科、物理・情報科学科、生物・化学科、地球圏システム科学科の4つの学科となりました。僕はその内の物理・情報科学科に所属しています。1年生のうちには共通科目が多く、専門的な勉強はわずかですが、2年生の中盤から物理コースと情報コースとに分かれて、専門的な勉強をするので楽しみです。また、物理・情報科学科は「和気あいあい」とした和やかな雰囲気、皆仲のよい学科です。

大学の授業

大学では選択科目が多く、時間帯も選べるので、時間割は自分でアレンジできます。だから、自分が興味のある授業が受けられるし、様々な分野にわたるものなので、入学当初は高校との大きな違いを実感しました。また、授業は1コマ90分なので初めは長いなあと感じました。しかし、最近では、授業に集中できるよう、授業中時計を見ないことを心がけているので長いと感じることもなくなりました。また、休み時間は移動時間も含めて10分なので非常にハードスケジュールです。

これからの生活

一人暮らしでは何事にも責任は自分にあります。当たり前のことを当たり前にする。その心がけの大切さを学べた気がします。

また、大学では高校に比べると自由な時間が多いので、勉強・サークル活動など、自分がやりたかったことにチャレンジできます。その中で普段得られない何かを得られると思います。もし、「自分が将来やりたいことがはっきり決まっていな」という人がいても、きっと見つかるでしょう。

これからが本番の大学生活、1日1日の時間を大切に、有効に使っていきたいと思います。



秋吉台での課外授業（右から3番目が筆者）



大学生をはじめて

理学部 生物・化学科 1年 難波 澄吉

大学の授業

大学での学生生活を始めて、私が一番苦労したのは授業の履修でした。高校までは学校の先生が決めた時間割通りに授業を受けるのが普通でしたが、大学ではそうはいきません。授業を選び、自分で時間割を作らなくてはならないのです。講義の内容を調べながら時間割を組み立てていくのは、楽しい反面、とても大変でした。

一人暮らし

大学に入学すると、一人暮らしを始める人も多いはず。私もその一人ですが、実際に暮らしてみ

いとわからないことがたくさんありました。炊事・掃除・洗濯どれも一人で全部やるとなると、なかなか思うようにはいきません。ある程度慣れてくれば余裕がでてくるのですが、それまではとにかくこなしているといった感じでした。一人暮らしは“自由”というイメージが強かったのですが、いざ一人になってみると思った以上に大変なことも多く、家族の存在の大きさを感ぜずにはいられませんでした。

学 び

私は、大学周辺の自然豊かな環境や、見学に行った研究室の温か

い雰囲気や憧れてこの大学に来ました。実際に来てみて改めて感じたのは、学習環境や住む環境が大学での活動に大きな影響を与えるということです。例えば、学生をサポートするための設備が整っているとか、何か困ったらすぐに先生に相談できるような雰囲気があるとか。些細なことでもいいから何か自分の心に余裕をもたせるものがあれば、大学での活動がより有意義なものになると思います。

せっかく自分の好きなことを学ぶために大学に進学するのだから、自分にとってベストなかたちで学ぶことができる環境を見つけることも大切なのかもしれません。



JABEEと私

理学部 化学・地球科学科 地球科学コース 4年 相山 光太郎

JABEEとは

JABEEとは日本技術者教育認定機構の略称であり、高等教育機関における技術者教育プログラムの審査を行っている組織です。様々な教育機関の教育プログラムが一定の国際水準に合致しているかどうかを検証し、認定しています。我々が地球科学コース（現地球環境科学コース）も晴れて2004年に認定されました。これにより2004年度以降の卒業生から申請するだけで技術士補の資格が得られるようになりました。とても難しいと噂の技術士補の資格が卒業とともにいただけるのです。これはラッキーの一言に尽きます。

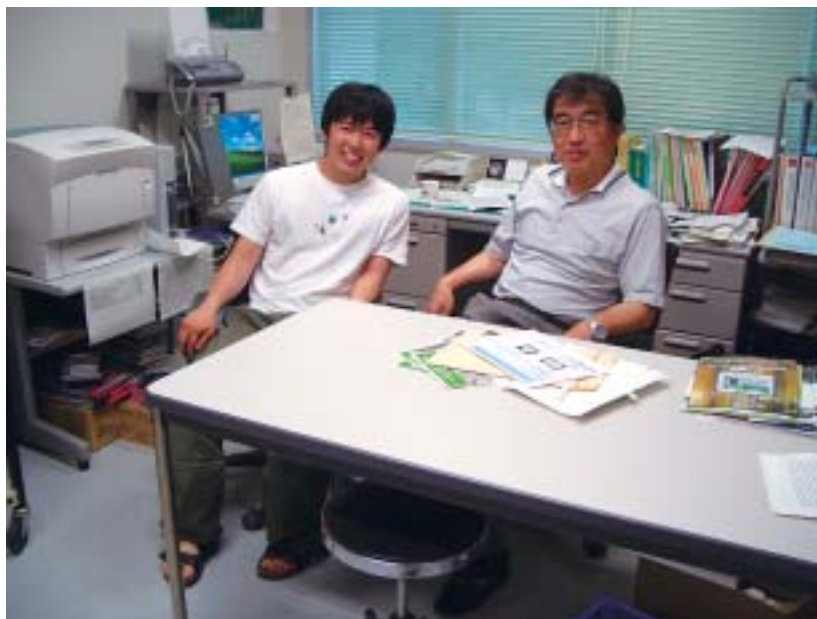
更なる学習を

JABEE認定により大学での講義はより充実したものになったと思われます。しかし、私は講義での学習だけでは物足りないと思います。なぜなら技術士補を獲得することにより自分に課せられる責任も大きくなるからです。確かに何か資格を持つことは就職などに有利となります。しかし、その分周囲の人々があなたに期待していることを忘れてはなりません。更なる学習が必要となります。

技術士補獲得の 締めくくりに

私は今卒業論文にとりかかっています。活断層研究を行っている

のですが、入学以前からの夢だったので、とても充実しています。だからといって活断層の研究ばかりしているわけにはいきません。ある教授からのお言葉なのですが「様々な研究を行っていくことで全体の能力が底上げされる。それにより自分の研究も伸びてくる。」と教わりました。まさにその通りだと思います。今年は様々な地域に行き、岩石を見たりして学習しようと思っています。最近地球科学がとても楽しく、ほとんど自分の趣味になってきています。自分では技術士補獲得に少しずつ近づいているのかなと日々感じています。しかし、まだまだ勉強です。最初は苦痛でしょうが、楽しくなること間違いなしです。皆さんも私と一緒に頑張っていきましょう。



筆者（左）と所属する研究室の金折教授（右）



たくさんの自由

理学部 化学・地球科学科 3年 齋藤 広真

やりたいことが出来る

大学という所は自由です。授業はそれなりにありますが、自由な時間のほうが多いでしょう。時間割次第では、土日以外でも1日休みの日があったりします。そのため、勉強・スポーツ・バイト・遊ぶにしても、好きなだけすることが出来ます。その時間をいかに上手く使うかで、大学が楽しいものになるかどうかが決まります。それに、親元から離れて一人暮らしなので、本当に自分のしたいことができます。

また、長期の休みが今までよりも長いので、より自分のしたいことができます。旅行に行く等、普段できないことをしてみるのもいいと思います。

責任について

自分のやりたいことが出来ますが、今までと一番違うのは「責任をもつ」ということです。例えば、授業に出なくても注意されないし、提出物を出さなくても何も言われません。しかしそのような行動をしてしまうと、単位が取れなくて

卒業できなくなったり、受けられるはずの利益が受けられなかったりといったことになります。これは、学内だけではなく、学外でも同じです。ただ、普通に行動していれば自然と責任ある行動になってきます。

最後に

大学に入ると本当に自由に色々なことが出来ます。自由に色々やることで、今まで経験したことのないことも経験でき、自分を成長させられますよ。



医 学 部

医学部座談会

本年度のオープンキャンパスに向け、医学部からのメッセージを座談会の形式でお届けします。今回は、医学部（医学科・保健学科）自治会の学生の皆さんに協力を仰ぎ、後輩へ自由なメッセージを発信してもらった内容としました。出席者は、医学部医学科自治会会長 川越勝也君（医学科 4年）、保健学科自治会会長 伊藤大佑君（検査技術科学専攻 3年）、村山久和君（看護学専攻 2年）、川田和正君（医学科 2年）の4名の方々です。

Q 1. 山口大学医学部の学生の特徴は？

(川 越) そうですね、みんなかなり仲が良く先輩・後輩とも気軽に会話ができる感じです。あと勉強は当然のこととして、部活に対してかなりまじめですね。多くの人が部活に入り、日々練習に励んでいます。結果として去年も3部活ぐらいが全医体（全日本医科学生体育大会王座決定戦）に行っています。自分自身その部活の1つの剣道部なんですけど。



座談会出席者

(左から川越さん、伊藤さん、武藤教授、村山さん、川田さん)

(川 田) 医学科は男女を問わずみんな楽しくやっていますね。医学科の学生は暗いというイメージがありましたが、実際入ってみると勉強に部活に遊びにみんな精力的に頑張っています。暇な時はみんなで遊びに行ったり、試験の前には集まって勉強したりと今はとても楽しいです。

(伊 藤) みんなとても明るく、部活や医学祭などの行事にも積極的に参加しています。もちろん勉強の方も頑張っています。検査技術科学専攻は40人と少ないですが、放課後みんなで遊んだり、テスト前に一緒に勉強したりと仲良く過ごしています。

Q 2. 山口大学で学ぶことのメリットは何ですか？

(川 田) 山口大学のカリキュラムは変わっていて、いわゆる学期末試験というものはありません。代わりに週1回、消化器系や呼吸器などのユニットごとの試験があります。毎週毎週テストがあるので大変ですが、講義の内容がその都度きちんと理解できるので勉強のしがいがあります。

(川 越) 川田君が言ったように、山口大学の特色として毎週の試験がありますが、その総まとめとして3年時には基盤系統一試験、4年時には全国規模の試験として、パソコン画面上で解答をするCBTがあります。この試験前には1ヶ月ぐらい授業もなく自由に勉強する時間があり、この期間はみんな図書館にこもって自分の弱点を勉強していますね。あとはチュートリアルといった現場の先生が作った文章中から自分たちで問題を抽出し、それについて勉強するのはいいですね。

(伊 藤) 検査技術科学専攻は2年から講義とはまた違う「実習」が入ります。実習では当然初めての事柄なので失敗はつき物ですが、うまくいくまでやり直ししたり、結果に対して自分なりに考察したりと、様々なことを考え取り組まなければなりません。それは将来検査技師という職業に就いたときに失敗は許されないということにも通じます。それを知ることができるのは医学部に入った証ではないかと思えます。

(村 山) 山口大学がもっている国際交流の各種プログラムに魅力を感じ受験を決めました。入学後に参加した海外の姉妹校との交流会では、将来同じ目標に向かって勉強している海外の学生と友達になり、様々なことを分かち合ったりしました。山口大学の国際化はこれからも充実していくと思えます。

Q 3. 将来の夢について語ってもらえますか？

(川 田) やはりまずは知識・技術共にしっかりした頼りになる医師になることです。その上で患者さんが何でも話せるような親しみやすい医師になればと思います。理想とのギャップが大きいので大変です。

(伊 藤) 僕は信頼される検査技師になりたいです。また、医師や看護師、その他の医療従事者とのコミュニケーションを忘れず、広い視野で物事を捉えることのできる人になりたいです。

(村 山) 看護の世界ではまだ男性看護師は少数派ですが、これからの医療界ではますます必要とされる存在になっていきます。活躍の場は、医療現場にとどまらず、社会の隅々に至る分野で活躍できる可能性があります。

(川 越) まだはっきりとしたものはないですが、患者さん自身が十分に言葉に表すことが難しい不安などを感じ取れるような医師になりたいです。まずは患者さんの言葉

を十分に理解してあげることから始めなければなりませんけど…。

Q 4. 医学部キャンパスってどんな所ですか？

(川 越) 吉田地区（山口市）から離れているのはさびしいですけど、その分、学部内の仲が良いと思います。医学祭等でも常に仲良くやっていますよ。あと、工学部が近いので部活によっては一緒に練習をできる場所がいいところだと思います。

確かに車は必要ですね。車さえ持てば、山口の道路は走りやすいので、快適に角島や錦帯橋、秋吉台といった観光地を巡れますね。

(川 田) 24時間利用できる図書館があり、施設が充実しています。車を持っている人が多いので、海やスキー場に遠出しやすいですよ。

(伊 藤) 保健学科棟が新しくでき、保健学科の学生は其中で授業・実習に励んでいます。きれいな建物で、設備もかなり整っており、充実した学生生活を送っています。

(村 山) 自分が勉強したいなら、惜しみない援助を提供してくれます。そのための環境が最高に整っている場所だと思います。

近代日本を作り上げた伊藤博文をはじめとする長州ファイブを生み出した山口の地で、新しい時代の息吹を感じてみませんか。きっと、これからの君の人生にとってプラスになるはずです！



角 島

工 学 部

海外進出！！

工学部 社会建設工学科 東アジア国際コース 4年 米田 純

海外！？

私は、工学部社会建設工学科に在籍しています。高校生までは、多くの学生と同じように普通科に通っていました。そのときは、家の周り数キロメートルのなかで日々生活を送っていて、海外というのはテレビや映画の中の世界だと感じていました。ところが、大学に入るとすぐにその考えは一変しました。大学には、海外からの留学生も大勢います。そのキャンパスライフの始まりが、まず私の目を海外へ向けてくれました。

短期留学

私の在籍する社会建設工学科では2年生進級時に社会建設工学コー

スと東アジア国際コースに分かれます。そこで迷わず国際コースへ進みました。そして、カナダへ短期留学に行きました。ここでは数多くのことを経験し、吸収して帰ってくるのが出来ました。ホームステイではネイティブの生活や考え方を学びました。カナダではその国民のほとんどが移民です。そのために、現地の人々は“お前もカナディアンだ！！”というウェルカム精神で迎え入れてくれ、私が日本人であることは関係なく接してくれました。

人と人がつながりを持つときには必ず会話があります。そのときは会話が英語でしか通じないということで悔しい思いもたくさんしましたが、それがより一層その相手のことを知りたくさせ、さらに

勉強への意欲を駆り立てるということ強く感じました。

世界はひろい！！

帰国してからも、カナダで知った友達や家族とインターネットを使って会話をしたり、手紙のやりとりをしたり、それまでとは全く異なった生活を送っています。自分の知識・感性・視野を広げようと思ったとき、大学という場所がひとつの原点になると思います。大学へ進学した際には、今までには経験したことのない世界が広がっており、自分の行動次第では多くのチャンスを手に入れ、実らすことができるかと期待しています。



ホストファミリーと
(右端が筆者)



カンパセーションパートナーたちと
(後列真ん中が筆者)



クラスのみんなど
(最後列右から2番目が筆者)



大学生活

工学部 電気電子工学科 4年 村上 真文

充実した大学生活を送るには、「よく学び、よく遊ぶ」これに尽きます。大学ではこれまでより、多くの自由な時間があります。この自由な時間をどのように使うかで、大学生活の価値が決まってくると思います。

勉強でも遊びでも、何事にも興味を持つことが大切です。講義も2年からより専門的なことが多くなってきて、内容も難しくなって大変になると思いますが、興味の

持てるものであれば学ぶことも面白くなってきます。

大学では同じ学科の仲間、サークルの仲間やバイト仲間など、多くの人との出会いがあります。同じような趣味の人たちで集まりワイワイ騒いだり、先輩にどこかへ連れて行ってもらったりして息抜きをするのもいい思い出になります。もちろん出会いだけでなく、サークルなどで自分の新しい面を探してみるのも面白いと思います。

その他、七夕祭や姫山祭といった大学祭も多くの人が集まり、かなり賑わっています。やろうと思えば自分で店を出すこともできるので、進んでイベントに参加するのも良い経験になると思います。

大学生活4年間は意外に長いように思えて短いです。この4年間で、自分をいかに成長させていくかという目標を持って行動していくことが、社会へ飛び出すときにも役に立ってくると思います。



研究室の一風景

(研究室メンバーと共に ～PCクラスタを囲んで～)

大学生活と自己成長

工学部 知能情報システム工学科 情報認識工学研究室所属 4年 川添 喜史

研究内容について

私は現在、情報認識工学の先生方の協力の下、オブジェクト指向データベースについて勉強しております。昔と比べ、インターネットが当たり前のように使われる時代になってきている現在において、情報をどのように活用するか、また、いかに速く検索するか、ということは、いくら技術が進歩しても、追究し続けるべき課題であると思っております。…と、格好良く言っておりますが、まだまだ自分自身未熟であります。御教授頂いている先生方、また支えてくれているスタッフ・先輩・仲間へ感謝であります。

4年間の過ごし方

現在、大学4年生となった私ですが、これまで色々なことを経験することができました。一人暮らし・サークル・バイト・資格勉強・大学祭…と、挙げていくと数えきれません。サークルはソフトボールサークルに入っております。皆で笑いながらスポーツするという、高校の野球部の時とは一味違う楽しさがあります。また、販売業のバイトを1年間続け、お金を稼ぐことの大変さを経験することができました。そして資格取得のための勉強で、なぜ使わないような勉強までしなくてはいけないのだろう、という疑問を吹き飛ばすことができました。学ぶことの大切さも同時に勉強した気がします。どの出来事も無駄なことが一つも無

く、全て自分を成長させてくれた事象だと思っております。

成長を実感

4月に就職が決まりました。就職活動の中で東奔西走している自分と向き合った際に、「ああ、高校の頃と比べると随分成長したな。」と思えました。大学での経験は本当に貴重である、と実感できる出来事でした。

大学生活は、一言で言うと「自己成長」であると思えます。大学へ行く、または大学生ならば、大学生活を経ていく上で、大人への、社会人への成長を実感してほしいと思えます。きっと自分にとってかけがえのないものになると思えますよ。



研究室での生活風景（右端が筆者）

農 学 部

大学生生活

農学部 生物資源環境科学科 4年 中野 彌生

入学当初は…

「昨日泣いちゃった〜。」ある友達の発言に、私は「いやいや、ありえないし!」と思いました。よくいうホームシックです。一人暮らし…私にとっては誰にも干渉されず、自由に時間を使い、落ち着いて一人でいられることなのです。確かに家事は全部やらなければなりません、最初は新鮮そのものです。

さらに部活・サークル勧誘が活発です。4月は歩いていれば何かしらのピラをもらいましたね。(少なくとも私の) 高校では考えられないほど男子と女子が普通に会話している光景に驚いたものです(私だけかも?)。

この学科は…

私は土壌に興味を持ってこの学

科を選びましたが、気象・土壌・生物環境・植物の病虫害・農業経済など幅広く学ぶことができ、実際に農業を体験することもできます。大学の先生はなんだか話しかけづらいと思っていましたが、研究室に行ってみると面白く興味深い話を聞かせてくださったりして、今まで知らなかった世界が広がり楽しいですよ。

植物を育てるのが好き、将来の農業について考えたい、自然環境を守りたい、実験・分析が好き、などなど、興味があれば来てみてください。

学生生活では…

専門の勉強が学べることももちろん面白いですが、サークル・バイトで得られる楽しさも大学ならではのです。私は学科よりも長い時間を共有したサークルに友達が多

くでき(笑)、活動や合宿や飲み会…楽しいですよ!!バイトも定食屋で接客していて学生の顔見知りができたり、夜はご飯が出たりして助かります。バイトはいろいろあるから経験してみてください。

最後に…

大学は自由な時間が多いといっても、のんびり過ごしていたら、あっという間に過ぎてしまい後からやっとならばよかったなあと思うことがあります。社会に出るとなかなか自分のためには時間を割けなくなると思います。だから、旅行・留学・ボランティアなど長期休みを利用して、興味を持ったことは思い切ってチャレンジしてみてください。



教員室で指導教員と卒論の打ち合わせ中



実験室で先輩から器具の使い方を教わっているところ(左端が筆者)



農学部生物機能科学科とは

農学部 生物機能科学科 環境生化学講座 4年 岩城 範子

イントロ

私は農学部生物機能科学科4年生の岩城範子と申します。ここでは、生物機能科学科の概要・講座・キャンパスライフについて紹介したいと思います。

学科概要

生物機能科学科とは、旧農芸化学を意味する学問です。農芸化学とは生物資源を科学する学問で、その研究対象は、ヒトを除く全ての生物資源、例えば、植物・キノコ・微生物・細胞・蛋白・遺伝子などです。しかし、最近では、学際化（学問間の垣根が低くなること）が進み、癌機構解明や、花粉症の治療薬開発のベンチャービジネスなどがこの生物機能科学科でも行われています。将来、食品・製薬・農業などのバイオテクノロジー

ジー産業に携わりたい人が専攻するのに向いています。

講座紹介

次に、講座について紹介します。1年では教養科目を受講します。2・3年では分子生物学・生化学・細胞生物学・有機化学・物理化学・微生物学などの基礎専門科目と、食品衛生管理者という資格を取得するために必要な応用科目、例えば、公衆衛生学・食品衛生学・水産物利用学などを学びます。また、それに並行して、各講座の指導の下、基礎実験を行います。4年になると、講座に所属し、研究課題が与えられ、卒業研究に朝から晩まで従事することになります。また、それと並行して、大学院に進学する人は、院試の勉強をし、就職する人は就職活動をするようになります。

キャンパスライフ

キャンパスライフには、高校にはないサークル活動・バイトがあります。サークル活動はサイクリング・テニス・バスケ・オーケストラ・カメラなど多彩な分野があります。また、飲み会などの大人の付き合いも頻繁にあるのが大学の特徴です。

大学進学希望者へのメッセージ

最後に、大学志望する人へのメッセージを伝えたいと思います。大学は自由な所です。講義に出席しなくても注意されません。また、進路指導も少なく、自分で自分の夢を探さなければなりません。向上するもしないも自分次第です。大学進学後は、ぜひ自分の夢を掴んでください。



獣医学科での生活

農学部 獣医学科 5年 芝 希望

私たちの日常

みなさんは「大学生」にどんなイメージをもっていますか？わたしたち獣医のたまごとしての生活は、いわゆる「女子大生」の生活とは正反対だと考えてもらって間違いないでしょう。1年生の頃は、共通教育といって一般的な教養を身に付けるための講義を受けます（この頃はまだ普通の大学生でした…）。2年生からは、いよいよ専門的な勉強が始まります。動物の体の構造や機能、動物を取り巻く環境や微生物についてなど、魚類から哺乳類、ミクロからマクロまで、講義と実習で幅広く学びます。3年の夏休みの実習では、北海道の酪農家のお宅でお世話になり、毎日牛の乳絞りをしました。

現在、5年生になった私は、授業では動物の繁殖や、病気・診断・治療などについて勉強し、実習では犬の手術をしたり、つなぎを着て牛の相手をしたりしています。そして、空いている時間には卒業論文の実験、そのさらに空いている時間でバイトをしたり遊んだり…と忙しい毎日を送っています。高校生の頃に想像していた「女子大生」とはかけ離れた生活ですが、忙しい分毎日がとても充実しています。

研究室について

私の所属している家畜衛生学研究室は、ウイルスや寄生虫、アレルギーについて研究しています。私自身はウイルスについて研究しています。

獣医のお仕事

私はもちろん動物が好きですが、ただ「動物が好き」というだけでは、獣医になるのは難しいと思います。動物は人間のペットとしての存在というだけではありませ

ん。私たち人間の食料として飼われる動物もいれば、害を与える動物や、人間社会に属さない野生動物もいます。獣医師は、それら全てに関わる仕事です。

獣医学という学問を通してひとと動物の関係をよりよいものにする、それが獣医師の仕事であり目指すべきものだと私は思います。これから獣医師を目指すみなさんにも、それぞれ自分の理想があると思います。受験も大学生活も、それを実現するための過程の一つだと思ってぜひ頑張ってください。



生理学研究室のアイドル、チビです

学生生活・課外活動

陸上競技を通して

体育会陸上競技部元主将 教育学部 4年 前岡 剛至

怪我で始まった 大学生活

大学生になったばかりの4月、インカレを控えていた自分は足を故障してしまいました。今まで何回も怪我をしてきたけど一番つらい怪我でした。そして、7月に怪我が再発。本当にやめようかなとまで思う日もありました。しかし、そんな時支えてくれたのはまだ知り合ったばかりのチームメイトでした。

主 将

2年目からは走ることもでき3年の時には主将を任せられました。今まで主将なんてなったことも、なりたいと思ったこともなかった

のですが、せっかくみんなが選んでくれたし、自分にとっても大きな経験になると思い引き受けました。

主将を経験することによって今まで見えていなかったことも見えるようになりました。遠征の手配、大会の運営のことや、陸上部という組織のこと、そして、部員の考え。もちろん全部見えたわけではないのですが、今まで気付こうとしなかったことにも気付けるようになりました。

将来の「何か」に つなげるために

もちろんいいことばかりではありませんでした。部員80人をまとめる主将を務めるということは思っ

ていた以上につらい時が多く、やっぱりならなかった方がよかったかなと思うことが何回もありました。でもやっぱりそこで誰かに支えられなんとか最後まで続けることができました。最後のインカレの後、幹部交代でみんなに胴上げされた時、本当に主将をやってよかったと思いました。

これからの将来にこの経験をどう活かすかは自分次第だと思います。でも、この大学生活で経験したことは必ず今後の人生の糧となると確信しています。大学生活で何に打ち込むかは自分次第ですが、ここで何をしたか、何ができたかで将来の自分に大きな影響を与えるのは間違いないと思います。自分はここで本当に大きな経験をする事ができたと思います。



第59回中国四国学生陸上競技対校選手大会
男子4×100mリレーで優勝（4コースが山口大学）



リレーメンバーとともに
（前列左が筆者）

3年間テニスを続けてきて

体育会硬式庭球部主将 教育学部 3年 齋藤 晃慶

部活動の素晴らしさ

体育会の部活動は、練習はもちろんのこと、時間の制約や礼儀などの厳しさがあります。しかし、その厳しさがあるからこそ、社会人としてのマナーや振る舞いを身につけることができ、仲間と苦楽をともにし、喜びを分かち合えるなど、自分を成長させることができます。また、どこの部活動も同じだと思いますが、「厳しいときは厳しく、楽しむときは楽しむ」というメリハリのある活動をしています。硬式庭球部でも、練習や試合などではもちろん厳しさはありますが、コンパや行事などでは楽しむといったメリハリがあります。このように、部活動を行うことの素晴らしさは、自分を成長させられる、メリハリのある生活を送ることができるといったことに

あると私は考えます。

硬式庭球部の様子

山口大学体育会硬式庭球部は、現在、男子40名・女子14名で活動しています。皆が集まって行う練習は週4日ですが、コートがいつでも使えるため、練習日以外や授業の合間にでもコートに行ってテニスをすることができます。実際、私も1年生のときから練習相手を見つけては練習日以外の空き時間にコートに行って練習していたので、自分の技術をかなり高めることができました。また、毎年新入部員の中にはテニス初心者がありますが、このようにいつでもテニスができる環境があるおかげでみんな上手くなっていきます。だから、テニス初心者の方でも十分ついてこれられると思います。

目標に向かって

硬式庭球部の一番の目標は、王座（全日本大学対抗テニス王座決定試合中四国地区大会）で勝つことです。前回の王座では、男子が1部2位、女子が2部2位と、男女とも優勝にあと一歩手が届きませんでした。今年から王座の時期が冬から夏へと変わり、初めての大会を迎えることになりました。このため、王座への準備期間は短くなってしまいましたが、夏までにチームが作り上げられるよう、1人1人が高い意識を持って練習に励んでいます。本大会では、男子は1部優勝・全国王座出場、女子は2部優勝・1部昇格を目指し、日々の練習で身につけた体力・技術・精神力、そしてチームとしての団結力を武器に、試合で勝ち抜いていけるように頑張っていきたいと思います。



硬式庭球部集合写真



筆者

全国を目指して

体育会ボート部主将 農学部 3年 木下 友行

ボート部の魅力

僕達ボート部は、100人近い部員の数最大の魅力だと思っています。この人数の多さでもみんなが練習するときはしっかり練習し、楽しむときはしっかり楽しむという良い雰囲気の中で活動しています。

今年でボート部は40周年を迎え、これまでの伝統をしっかり現在まで受け継いできています。

目標：インカレ優勝

ボート部の最大の目標は、インカレで優勝することです。ここ最近では、インカレや全日本選手権でも上位の成績を残しています。そして、さらに頂点を目指すため部員が一丸となって、高い意識の中、日々練習しています。ほとんどの部員が、ボート経験初心者ですが、頑張ればそれなりの結果を残すことができるのです。

学生生活を良いものに

学生生活は、人それぞれだと思います。ただ、部活に入ることによって、その部でしか味わえない貴重な体験を得ることができるのです。もう大学でしか部活はできないと思うので、もし大学生活の中で充実した日々を過ごしたいのならば、部活に入ることをお勧めします。



加古川レガッタ新人戦エイト
(中央先頭が山口大学)



試漕会の全体集合写真

サークルのススメ

映画倶楽部 人文学部 3年 山田 侑紀

サークル活動の魅力

サークル活動の魅力……、各サークルによっても異なるでしょう。友人が増えるということの魅力に挙げる人も少なくないと思います。サークルを通じた友人は学部での友人よりも濃い関係を築くことができると思います。サークルで過ごす時間が長いほどその傾向は強まるようです。様々な活動の中で共に苦勞し、共に笑いあった仲間が大学4年間で得た大切な人々となるのではないのでしょうか。

またサークルの友人は自分とは異なる学部であることが多いため、考え方・見方の違いにより自分の視野が広がります。勿論、サークル活動をしなくても異なる学部の友人はできるかもしれませんが、

趣味趣向が似ているサークル内の友人から受ける影響というのは考えるよりも大きいように思います。

加えて先輩・後輩など自分と年齢の違う人々との出会いが多いことも魅力の一つかもしれません。大学での学び方や遊び方など多くのことを教えてもらえます。

映画制作の魅力

さて、私は映画倶楽部に所属しているわけですが、映画制作についての魅力を語ってみたいと思います。映画制作は想像を形にし、皆に見せる作業です。この説明だけ聞くと文章・絵と違いがないように思えます。映画制作が他の活動と大きく異なる点は共同作業ということです。共同作業であるが

故に、意思が他の人に伝わらずうまくいかないことやぶつかることも多々あります。だからこそ伝わった時、完成した時の喜びは倍になります。また撮った映像を編集という作業により全く異なる印象の映像に変えることも楽しい点です。

最後に

サークルといっても様々な種類があります。上記のことはサークルの魅力の僅か一握りです。サークルの魅力を感じるには実際に入ってみるのが一番です。自分に適したサークルを見つけるためには様々なサークルをのぞいてみるのがいいのではないのでしょうか。



映画倶楽部のメンバー（右から4番目が筆者）



私のサークル活動

第49代 マンドリンクラブ部長 教育学部 3年 谷本 瑞絵

私とマンドリンクラブ

私は、マンドリンクラブという音楽系サークルに所属しています。“マンドリン”とはイタリア生まれの弦楽器で、とても繊細で美しい音色を奏でます。私達マンドリンクラブはそんなマンドリンの音色に魅了された仲間が集まり、年に2回行う定期演奏会に向けて毎日練習に励んでいます。部員は学年・学部を越えてみんな仲が良く、とてもアットホームな雰囲気です。

私がマンドリンに出会ったのは大学に入学してからでした。「大学から何か新しいことを始めよう」と思い、入部したのがきっかけです。



私のマンドリン

サークルの魅力

私が「このサークルで本当によかった!」と思ったのは定期演奏会の時です。演奏会に聴きに来て下さったお客様にマンドリン音楽の魅力を伝えられるように、そして「聴きに来てよかった」と思っていただけのように、じっくり時間をかけて曲作りをしています。

そして本番では演奏会まで一生懸命頑張ってきた成果が出せるよう部員一人ひとりが心を込めて、そしてみんなが一つになって演奏します。みんなの音が一つになった瞬間、何物にも代え難い感動が生まれます。この感動が私にとってこのサークルの一番の魅力だと思います。

サークル活動で得たもの

マンドリンクラブは総勢60名と

いう大所帯であるため、様々な価値観を持った人と出会うことができます。たくさんの人と出会うことでいろんな考え方・感じ方を学ぶことができますし、時にはぶつかり合うこともあります。しかし共に活動してきた仲間との絆はとても深く、私がこのサークルで得た多くの仲間や思い出は一生の宝物だと思っています。また、こうした人間関係の中で人との接し方やコミュニケーションの仕方を学ぶこともできました。これらは社会に出てからきっと役立つと信じています。私は今までの大学生活を振り返ってみて、このサークルに入って本当に良かったと思っています。

大学生活で何か夢中になれるものを手に入れるなら、私はサークルに入ることをお勧めします。きっと勉強では手に入れることが出来ない何かを得られるでしょう!



定期演奏会



心に響け 私たちの歌

混声合唱団チーフマネージャー 教育学部 3年 中原 まどか

混声合唱団について

混声合唱団は今年で結成34年になる歴史ある団体です。

これまで、1年間の活動の集大成である定期演奏会、他団体から依頼を受けての演奏、全日本合唱コンクール（全国大会に過去13回出場）などで、多くの方々に歌声を届けてきました。

我が団は、こうした行事に向けた音楽づくりや団内での行事の企画など団活動の運営全てを学生が取りしきっており、男女・学年・学部を越えて、仲良く和気あいあいと活動しています。

特に、今年度は『心に響け 私たちの歌』というスローガンのもと、歌に対して積極的に努力する事と、仲間との信頼関係を大事にして活動しています。

活動

団では、毎週月曜・水曜・金曜の午後6時から、学生指揮者の下、みっちり濃密な練習をしています。

また、主なイベントとして、文化会の行事である音楽祭や、個々のスキルアップを目指す独唱会、少人数でより技術力や音楽への理解を深める団内演奏会、1日歌に没頭する夏・秋合宿、自分たちの

歌のレベルを確かめる全日本コンクール、山口の方々とともに歌うクリスマスミサ、そして何より、1年の集大成となる定期演奏会などがあります。

歌

先ほど書いたとおり、今年は、「心に響け 私たちの歌」をスローガンとしています。『仲間たちで心を響かせあって作り上げた、私たちにしか歌えない歌こそが聴いてくださるお客様の心にも響かせることができる。』という意味のスローガンなのですが、やはり合唱の最も面白いところは“繋がる

こと”だと思います。

『歌は人々を結ぶ』という言葉があります。聞く人・歌う人・作る人、全ての人をつなげる架け橋こそが歌なのです。私たちはそんな歌の歌い手になれることを願って、日夜練習に励んでいるのです♪

定期演奏会

山口大学混声合唱団
第34回定期演奏会度定期演奏会
2006年12月9日（土）
山口市市民会館大ホール
開場17：30 開演18：00



練習風景

サークル紹介

本学には、学生の自主的な課外活動を行う団体として「体育会」、「文化会」、「大学祭実行委員会」の3団体があり、大学の公認団体として取り扱っています。それを構成するサークルとして体育会公認サークルが36サークル、文化会公認サークルが17サークルあり、学生自らの手で運営し、それぞれの目標に向かって、日々活発に活動しています。

また、小串地区（医学部）、常盤地区（工学部）においても、学生自治団体が組織されており、全学の体育会や文化会と一緒に活動しているサークルや、独自に活動しているサークルなどがあり、活発に活動しています。

[体育会]

体育会公認サークル

- | | | | |
|---------------|----------|----------------|-------------|
| ・合気道部 | ・硬式野球部 | ・スキー部 | ・ハンドボール部 |
| ・アイスホッケー部 | ・ゴルフ部 | ・ソフトテニス部 | ・ボート部 |
| ・アメリカンフットボール部 | ・サイクリング部 | ・卓球部 | ・ヨット部 |
| ・鷹援團 | ・サッカー部 | ・軟式野球部 | ・ラグビー部 |
| ・オリエンテーリング部 | ・山岳部 | ・馬術部 | ・陸上競技部 |
| ・空手道部 | ・自動車部 | ・バスケットボール部(女子) | ・ワンダーフォーゲル部 |
| ・器械体操部 | ・柔道部 | ・バスケットボール部(男子) | |
| ・弓道部 | ・準硬式野球部 | ・バドミントン部 | |
| ・剣道部 | ・少林寺拳法部 | ・バレーボール部(女子) | |
| ・硬式庭球部 | ・水泳部 | ・バレーボール部(男子) | |

[文化会]

文化会公認サークル

- | | | | | |
|--------|--------|--------|-----------|-------------|
| ・E.S.S | ・吟詠部 | ・写真部 | ・美術部 | ・ユースホステルクラブ |
| ・映画倶楽部 | ・考古学部 | ・将棋部 | ・文芸部 | |
| ・演劇部 | ・混声合唱団 | ・吹奏楽部 | ・邦楽部 | |
| ・管弦楽団 | ・茶道部 | ・洞穴研究会 | ・マンドリンクラブ | |

[医学部学生自治会]

医学部学友会所属サークル

体育会系

- | | | | |
|--------------|--------|--------------|----------|
| ・剣道部 | ・水泳部 | ・スキー部 | ・ハンドボール部 |
| ・ソフトテニス | ・空手道部 | ・バレーボール部(女子) | ・サッカー部 |
| ・硬式庭球部 | ・バスケ部 | ・柔道部 | ・準硬式野球部 |
| ・山岳部 | ・卓球部 | ・バドミントン部 | ・少林寺拳法 |
| ・バレーボール部(男子) | ・ラグビー部 | ・陸上部 | ・弓道部 |

文化会系

- | | | |
|----------|-------------|------------|
| ・国際医療研究会 | ・E.S.S | ・医・工学部管弦楽団 |
| ・美術部 | ・カット君ネットクラブ | ・軽音楽部 |

[工学部学友会] 工学部学友会所属サークル

- | | | |
|------------------|----------------------------------|----------------------|
| ・ 合気道部 | ・ 山口大学工学部少林寺拳法部 | ・ ワンダーフォーゲル部 |
| ・ アマチュア無線部 | ・ ソフトテニス部 | ・ 準硬式野球部 |
| ・ インパルス(テニス) | ・ ソフトボール部 | ・ 山口大学文化会吹奏楽部宇部支部 |
| ・ オリエンテーリング部 | ・ 工学部バドミントン部 | ・ 将棋同好会 |
| ・ 器械体操部 | ・ バレーボール部 (男子) | ・ ボードゲーム研究会 |
| ・ フットサル部ぎゃらん | ・ バレーボール部 (女子) | ・ 温泉たまごDX (バスケットボール) |
| ・ 軽音楽部 | ・ 邦楽部 | ・ アメリカンフットボール部 |
| ・ 剣道部 | ・ 山口大学医・工学部マンドリンクラブ | ・ 石原軍団 (フットサル) |
| ・ 山大工学部バスケットボール部 | ・ 夜間主サッカー部 | ・ 空手道部 |
| ・ 工学部サッカー部 | ・ N. B. C Scratch (夜間主バスケットボール部) | ・ Ambasa (電電etc) |
| ・ 自動車部 | ・ 夜間主バレーボール部 | ・ F. C. ミツル(フットサル) |
| ・ 写真部 | ・ ラグビー部(工学クラブ) | ・ F. C. おこちゃ |
| ・ 柔道部 | ・ 陸上競技部 | |

[大学祭実行委員会]

吉田地区の大学祭（姫山祭）及び新入生歓迎フェスティバルは、山口大学大学祭実行委員会を中心に企画・運営され、姫山祭は、近年特に盛大になってきており、近郊から多くの市民の方々も足を運ばれています。

また、医学部（医学祭）、工学部（常盤祭）においても、それぞれ実行委員会が組織され、毎年盛大に開催されています。

[その他]

これらの他にも、本学では様々なサークルが活動をしています。山口大学に来られた際には、是非ご自分の足で探して、ご自分に合ったサークルを見つけてください。

きっと、充実した大学生活を送ることが出来ると思います!!





ハッピーを着た人たち

七夕祭実行委員会 実行委員長 人文学部 3年 松原 康洋

私は山口大学の吉田寮に住んでいます。2年前の春、山口大学に合格が決まったときすぐに寮に入ろうと決めました。それは、まず家賃がビックリするほど安かったからです。二人部屋で、さらに狭いという欠点など吹き飛ばすほどの安さに魅かれたのです。二つ目の理由は、共同生活をするので、あっという間に友達がつくれると思ったからです。実際、寮に入ると新入寮生歓迎コンパなどの催しものがあり、個性的な先輩方や友達に出会うことができました。

入寮初日に驚いたことがありました。両親と一緒に車に荷物を詰めて実家を出発し、寮に着くやいなや、黒いハッピーを着た集団に大声で挨拶されたかと思うと、さら

に彼らは車に駆け寄って来て、荷物を親切にも部屋まで運んでくれたのです。他の新入寮生も黒いハッピーの人たちに部屋まで案内されて、いろいろな説明を受けていました。今考えると、彼らは七夕祭実行委員だったのです。私も2年目の春は新入寮生のお手伝いをさせていただきましたが、その時は彼らの勢いにただ驚いていました。七夕祭実行委員会の先輩方はその後も、歓迎会や茶話会などを開き新入寮生を楽しませてくださいました。

そして、私がなぜ七夕祭実行委員会に入ろうと思ったのかというと、まず一つ目の理由は、やはり友達をつくりたかったからです。数多くの友達をつくることで大学生活も楽しくなると思ったのです。

二つ目の理由が決定的でした。松井秀喜選手のようなプロ野球のスター選手になりたかった私は、野球部入部を考えていましたが、私が住むことになった部屋の相方が七夕祭実行委員会の先輩だったため、うまく乗せられ、入ることを決断しました。入ってからは、相方の先輩からいろいろなことを学びました。嫌なこともたくさんあったけど、本当に七夕祭実行委員会に入ってよかったと思いました。

そして、ついに今年で3年目となり、気づけば実行委員長になっていました。ある意味、スター選手になれたかなと思います。今年も多くのお客さんが七夕祭に来ていただき、本当にありがとうございました。



市中心商店街での仮装パレード

姫山祭について

山口大学大学祭実行委員会 委員長 経済学部 2年 池谷 周平

姫山祭

今年で57回目となります山口大学大学祭「姫山祭」は、毎年5000人を超える来場者を集める大規模な大学祭として、年々盛り上がりを増してきています。今年は例年と異なり12月という寒い時期に開催しますが、寒さを忘れるくらい楽しい「姫山祭」になるよう、皆さん一緒に盛り上げていきましょう。

目玉イベント

姫山祭の一番の目玉は、お笑い

芸人による「無料お笑いライブ」です。過去には、「中川家」や「品川庄司」、「FUJIWARA」などが来ました。ステージの周りは大変な人だかりで、毎年大盛況です。

アーティストック ライブ “FLASH”

昨年からはまったアーティストックライブ“FLASH”は、夜の部として姫山祭を盛り上げてくれます。昨年は「YOU THE ROCK」などが来ました。今年も盛り上げていきます。

その他のイベント

その他にも、「スポーツ大会」や「炊き出し」、「フリーマーケット」など、今年も様々な企画を予定しています。特に今年はW杯開催ということもあり、例年以上にスポーツ大会が盛り上がりを見せてくれることだと思います。

開催予定日

日 時：2006年12月2日（土）

13：30～20：30

（雨天決行）

場 所：山口大学吉田キャンパス

テーマ：「創思奏愛」



姫山祭についての会議風景



吉田寮とは

吉田寮自治会代表総務部長 人文学部 3年 満江 亮

自由な吉田寮

吉田寮の総務部としての仕事を
して、新入寮生からの書類に
目を通して、「寮生活を行
うことで、規律正しい大学生
を送りたい」というような
ことが書かれています。私は
このような文章を見たとき、
思わず吹き出しそうになり
ました。なぜなら、私たち
吉田寮には、厳しい規律な
どほとんど存在しないから
です。門限などはなく、バ
イトやサークル活動で夜遅
く帰ってくる人は多いし、
集会所や談話室などでは平
日でも飲んだり騒いだりし
ています。それぞれの居室は
2人部屋ですが、部屋の中
やドアには思い思いのポ
スターを掲げて、廊下を歩
くと現代美術館さながら
です。そう、吉田寮は自由
の場であり、大学生活を謳
歌するにはもってこいの場
所なのです。

自治寮としての吉田寮

しかし、自由には責任が
つきものです。風呂掃除や
夜の電話番号、当番制で
行う寮生全員の義務です。

また、年に2回開かれる寮
生大会には必ず出席しな
ければなりません。なぜ
なら、寮生大会で承認さ
れた議案は、大学との正
式な交渉にかけられるか
らです。これらは、自分
たちが吉田寮生であるこ
とを再確認してもらうと
ともに、自分たちで吉田
寮を運営しているのだと
いう自覚をもってもらう
機会でもあります。つま
り、私たちが自由な大
学生を送ることができる
のは、自分たちで寮の運
営を行っているからなの
です。これが、山口大学
吉田寮が伝統として誇
る、「自治寮」のモットー
です。

人間関係の密な吉田寮

初めて寮に来て、4畳半
に2人で住むという体験に
どぎまぎする人が多いの
ですが、こういった人間
関係の密なところが寮生
活の醍醐味です。夜、宿
題をするのを忘れて2人
で話し込んだり、浴場で
ぼったり会った他の部
屋の友達とのぼせるまで
湯に浸かったり、食堂前
の卓球場で夜遅くまで卓
球をしたりする光景は、
寮の中ではごく自然で
す。

さらに、七夕祭実行委員
会や総務部の仕事をする
人は、新入寮生の人々に
とっては頼りになる存在
です。これは、私の体験談
ですが、1年生のときに
40度近い熱を出したとき
に、相部屋の友達や総務
部の先輩に大変お世話に
なりましたし、また私が
2年生のときに同じ状況
だった後輩を、車を持っ
て先輩と一緒に病院まで
連れて行ったことがあります
。このようなことは、人
間関係が密である吉田寮
であるからこそ見られる
光景であると思います。

吉田寮に関わる人々

最後にもうひとつ。吉田
寮は学生たちだけの力で
成り立っているものでは
ありません。事務員さん、
食堂で働く炊婦さんと栄
養士さん、清掃員の方、
学生支援課の人々など、
学生以外のたくさんの人
々の協力で成り立ってい
ます。このような人々と
の交流も寮生活を潤す
要素のひとつになって
います。吉田寮が40年
の長い伝統を守ってい
るのも、学生以外の人々
の支えがあるからなの
だと思います。



榎野寮での生活

榎野寮総務部寮長 人文学部 3年 岩竹 晴香

共同生活

山口大学の人文学部の近く、少し急な坂の上に私が住んでいる榎野(ふしの)寮があります。榎野寮は原則として二人部屋、お風呂やトイレは共同です。部屋の両側にはそれぞれベッドや机などがあり、お世辞にも広いとは言えません。ですが、実際に住んでみると部屋の狭さはそこまで気になりませんでした。まさに「住めば都」です。

小さな社会

「寮」というと、寮母さんの存在や、朝礼など、厳しい規則があるように思われるかもしれませんが。しかし、榎野寮には細かい規則や束縛がありません。寮のルールは

寮生で決め、ある程度の学生の自由が保障されています。榎野寮は寮生が運営している「自治寮」なのです。なので、共同生活をする上での最低限のルールさえ守れば、自分にあった生活が送れます。しかし、共同生活ということもあり、どうしてもプライバシーが守れない部分や、不便に感じることも多いのも事実です。ですが、社会に出ると私達は様々な人と出会い、一緒に仕事をし、ルールを守っていかねばなりません。小さな社会である寮での生活は、練習としての絶好の場所だと思えます。

榎野寮で暮らしてみても

私が寮に入って一番良かったと思うことは、友達がすぐそばにい

ることです。学部やサークルの友達と違い、寮の友達は私の生活を間近で見えています。それは私にとって「めっちゃ楽」な存在です。変に自分を飾る必要がなく、友達ありのままの私を受け入れてくれます。一人暮らしの自由気ままさはありませんが、部屋に戻ったときに相方が「おかえり」と言ってくれるたびに、寮の良さを実感します。寂しいとき、困ったときには相方もいますし、友達の部屋を訪ねることもできます。ついつい夜中まで友達と話しこんでしまうこともよくあります。一人暮らしでは難しい、寮ならではの付き合い方でしょう。友達と、経験を与えてくれる榎野寮に入って本当に良かったと思っています。





学びのフィールド 育ちのステージ

— オープンキャンパスによろこそ —

アドミッションセンター 助教授 田中 均

大学の「DNA」

オープンキャンパスにいらした皆さんは下のレリーフを発見できましたか。「長州ファイブ（長州五傑）」のレリーフです。明治維新前夜、長州藩の密命を受け、英国ロンドン大学に留学した伊藤博文はじめ5人の若者たちのレリーフです。彼らは、イギリスに渡り世界の中の日本、これから将来の日本を見つめる眼を培ってきました。山口県には、こうした進取の氣勢、献身的な精神があり、山口大学も、こうした風土の中にあります。

オープンキャンパスの見どころ

の一つは、大学のもつ雰囲気味わうことです。大学に入って日常生活の中では、どんな友人や先輩、そして先生がいるのか、キャンパスの中のどんな施設でどんな生活をするのかが、実はとても大きな要素です。そして、そこには大学の「DNA」ともいうべきものが脈々と流れています。

オープンキャンパスで出会った人・もの・出来事、そして大学の雰囲気をじっくり味わい返してみてください。そして、それが自分に馴染むものかどうかをすることも大切なことではないでしょうか。

「知」のフィールド

オープンキャンパスのハイライトは学部の模擬授業や実験などでしょう。大学には豊富な施設や設備があります。また、私立大学などと違い、先生方の数も多く少人数での教育が行われています。ですから、高校までの授業ではできなかった実験や観察、討論やグループ研究ができるのです。

オープンキャンパスで「大学の研究室」を見た方もいらっしゃるでしょう。そこが「新たな知」を生み出す「知識創造の場」です。高校までの学校にはない空間があったのではないのでしょうか。

大学生はこの環境や空間のなかで、自分の関心のある分野で、問題を発見し、価値のある研究課題を作り上げ、課題の解決に向けて自分の「知」を最大限に機能させて、試したり、討論したり、失敗や試行錯誤を繰り返しながら、形を作り上げていきます。

山口大学の理念「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」がそこにあります。皆さんが、自分の「知」を働かせる場を見つめることができたら、オープンキャンパスはとても意味あるものになったのだと思います。



長州五傑のレリーフ

学びのフィールドは無限大

今年のオープンキャンパスでは山口大学の特色ある教育活動として「TOEIC」と「おもしろプロジェクト」を紹介する企画を立てました。

大学は「知の探究者」となっていく場です。私たちの生活は他の人・他の地域・他の国との関係抜きには考えることはできません。自分の研究を極めていこうとすると、世界の人たちとコミュニケーションするツールとして英語は欠かすことができません。

英語が苦手という人も、オープンキャンパスの「TOEIC」の紹介を聞いて安心したのではないのでしょうか。一人の例外なく英語の力を伸ばす、というのが山口大学の教育活動です。

「おもしろプロジェクト」も山口大学の個性的な学生支援の活動です。大学の主役は学生です。その学生の創造性を思い切り発揮していろいろなことにチャレンジする、それが大学を活性化し、学生自身の貴重な経験になると考えて

いるのです。

自分を鍛え伸ばそうとする真摯な姿勢を大学がさまざまな形で応援する、そんな山口大学の教育活動の「思想」を味わってもらうことができたのではないのでしょうか。

主役は学生

下の写真の学生たちに出会ったと思います。彼らは「オープンキャンパス学生実行委員会」のメンバーです。

オープンキャンパスにいらした方が、よりよく山口大学を知ってもらえるようにするために、「学生相談コーナー」や「課外活動・学生生活紹介コーナー」「キャンパスツアー」などいろいろなアイ

デアを出して取り組んでくれました。

授業の合間を縫ったり、授業が終わった時間を調整したりしながら、夜遅くまで話し合い準備を進めてきたメンバーです。一人では思いつかない色々なアイデアが出てきたり、問題を解決する道筋が話し合うことで見えてきたり、忙しい中にも充実した思いで皆さんをお迎えすることができました。

山口大学にはこうした学生がたくさんいます。それが山口大学を支える「宝」です。

オープンキャンパスを通して、山口大学のいろいろな側面をみていただけたら、私たちにとってもとても幸せだと思います。

入試に関するお問い合わせ先

- ・アドミッションセンター
TEL：083-933-5045
Web：http://arc.yamaguchi-u.ac.jp/
- ・学務部入試課
TEL：083-933-5153
Web：http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~nyushi/
- ・山口大学携帯電話サイト
http://daigaku.jc.jp/u.php?u=00063



学内連絡先

TEL：083-933-5048

E-mail：ac.tnk@yamaguchi-u.ac.jp



これがTOEIC！がんばる！



Welcome 山口大学

学生生活の支援について



学生支援の役割について

学務部 学生支援課長 末永 保夫



学生支援課の様子

が本学の使命だと考えています。

学生支援課の役割

学生支援課は学生相談・学生生活支援・就職支援の3つに分けられます。学生相談の業務には修学・進学・経済・心理・生活、その他日常的な悩みや困った問題等が多数寄せられます。学生相談所カウンセラー及び保健管理センターと連携を取りながら、解決を図っています。

学生生活支援は経済的困窮学生の救済（授業料免除・奨学金制度）、学生が行う各種大会・行事を支援しています。

サークル活動は課外活動の主体

学生支援の考え方

学務部学生支援課は、学生支援センター学生相談部（学生相談所・何でも相談窓口）、学生生活支援部、就職支援部の各部と保健管理センターと連携を取りながら、学生の正課外活動全般の業務を行っており、その範囲は多岐にわたっています。特に課外活動全般の推進・サポートする役割を担っています。

新しく学長になった丸本学長の方針にも「教育・研究・学生支援」を3本柱に掲げております。大学の教職員が一丸となって学長の施策を理解し、バックアップすることが大学構成員の使命だと考えま

す。特に学生については教育・学生支援を主体に「多様な学生」が入学しようとも、本学の教育目標・理念に沿った教育と社会性の素養を身に付けて社会に送り出すこと



保健管理センター

であり学生の社会性を養う上でも重要な位置付けと考えていますが、サークル活動に参加する学生は年々少なくなりつつあり、サークル活動の加入を促進し、学生らしい大学生活を送って欲しいと思っています。特に今年度「自主活動ルーム」を作り、ボランティア・社会貢献等本学学生の中に「風」を起こし、大学運営等にも学生参画を促しより良い大学生活が送れる体制を取りたいと思います。

就職支援については最近の好景気感及び団塊の世代の退職を控え、好調時に推移しています。特に本学の学生は、企業の方から一定の評価をいただいております。所謂「山口大学ブランド」として学生を送り出していると思います。就職については、学生支援センター教員の献身的な努力により就職支援部が運営されており、評価もいただいております。学長の方針にもある

とおり学生の支援を担っている学生支援課の充実に私たちも取り組んでいます。学生の皆さん自身も様々な活動にチャレンジするという意識のさらなる高揚を図ることが必要不可欠だと考えます。

今後の課題

平成18年4月から学生サービスの向上と利便性を図るため学務課と学生支援課が玄関側の同一フロアに設置されています。今後、両

課の協力体制を構築し、「常に学生の傍に」をテーマとして更に学生サービスを図るつもりです。あなたが困ったり、悩んだりしたときには、いつでも、どんなときでも学生支援課をご利用ください。

学内連絡先

TEL : 083-933-5148

E-mail : ga106@yamaguchi-u.ac.jp



自主活動ルームにてビデオの編集作業中



就職支援室

学内施設紹介

ここでは、山口大学内にある学生に身近な施設を紹介します。各施設に付いている番号は次ページのキャンパスマップに対応しています。

ここに掲載されている施設以外にも、医学部・工学部にそれぞれ学生食堂・売店があり、吉田地区の共通教育棟・人文学部・経済学部にも売店があります。

総合図書館



利用時間：平日／休業期 8:30～21:45／8:30～17:30
 土日／休業期 11:15～18:45／休館

蔵書数：1,263,982冊

大学生・高校生に読んでもらいたい(おすすめの)本

「日本人が知らない日本人の遺産：教科書が教えないもうひとつの歴史」

黄文雄著 青春出版社 2005 1680円

図書館職員の方から一言

常設展示で、今話題の長州ファイブ「山尾庸三」の展示を行っています。是非一度来館下さい。

医学部図書館



利用時間：平日／休業期 9:00～21:45／9:00～17:30

土日／休業期 9:15～16:45／9:15～16:45 (休館もあり)

蔵書数：185,711冊

大学生・高校生に読んでもらいたい(おすすめの)本

「医学部スタディスキル：入学前から卒業まで」デビッド・W・ギルモア著 2005 1400円

図書館職員の方から一言

みなさんの大学生活を有意義にするためのサポートを勉学の面からお手伝いします。

工学部図書館



利用時間：平日／休業期 8:30～21:45／8:30～17:30

土日／休業期 11:15～18:45／休館

蔵書数：144,827冊

大学生・高校生に読んでもらいたい(おすすめの)本

「大学図書館がゼロからわかる本：学生のための図書館活用法」

大野友和編. 2005. 4. 1785円

図書館職員の方から一言

ご自分の専門分野に限らず、様々なジャンルの本を読まれることをお勧めします。

第一学生食堂ポーノ



人気メニュー

鶏ボン唐揚げ【262円】、ささみのチーズフライ【252円】、和風おろしトンカツ【294円】

おすすめメニュー

シーズン毎に、九州沖縄・アジア・北海道フェア等を企画しています。また、魚を使ったメニューや日替わり定食【273円】がおすすめです。

ポーノの方から一言

ほうれん草のおひたし・ひじき等、色々な品目を摂って下さい。8時から20時まで営業しており、朝昼晩とご利用できますので、朝食は必ず摂って欲しいと思います。

また、8月には改装工事が終了しホールが広くなります。それまでは席の譲り合いをお願いします。

第二学生食堂きらら



人気メニュー

チキンカツ【270円】、スパゲッティ(ミートソース【250円】・たらこ【300円】・サラダ【380円】)、バナナクレープ【120円】(パークレと略すらしい)

おすすめメニュー

日替わりランチ【320～400円】、天気の良い日はお弁当【280～380円】、週替わりの冷麺【400円】等がおすすめです。

きららの方から一言

私たちは手作りにこだわっています。この夏は麺にこだわり、色々なメニューを作っていきます。産地を明記し、地元の食材等を使っていきます。

また、食事だけが目的ではなく、憩いの場として1人でも多くの方に利用して欲しいと思います。

学内郵便局



業務内容

普通の郵便局と同じですが、一部取り扱っていないサービスもあります。学生さんからは配達記録郵便、受験料や光熱費等の払込が多いです。

局員の方から一言

送金の際には定額小為替が便利です。また、新規で通帳を作る際は、データの打ち込みにかかるため、少しお待ちせしてしまいかもかもしれません。

狭いところなので不便かもしれませんが、皆様のご利用を待っています。

ボーノ売店



取扱商品

テイクアウト用食品、サンドイッチ、おにぎり、弁当、ドリンク、スナック類

おすすめの商品

毎朝食堂で作った新鮮な弁当を販売しています。カロリー控えめでボリュームたっぷりの健康日替わり弁当8種類、定番弁当2種類、どんぶり2種類などです。

売店の方から一言

品揃えに関しましてはご要望にお応えいたしますので、ご意見をお寄せください。

また、8月に新装開店しスナックコーナーが移転しますので、ますますのご利用をお待ちしております。

大学会館売店 ・ブックセンター



取扱商品

文房具、コンピュータ機器、パソコンソフト、国内外の航空券・乗車券の手配、山大のシンボルマーク入りの文房具・名刺、本(専門書・教科書・文庫・新書)

おすすめの商品

本(読書の習慣を付け、大学生の間に100冊読もう)

海外旅行(大学生の間に語学研修等で、異文化交流・体験しよう)

売店の方から一言

店頭にはない商品はお取り寄せいたします。

各学部棟から離れた場所にあり、少し狭いところですが学生さんの成長・経験をバックアップいたします。

教育学部売店



取扱商品

文房具、パソコン用品、切手、印紙、山口県収入印紙、弁当、パン、菓子類、飲料、TOEIC・自動車学校・時事通信教員採用試験受付、写真現像、本、郵便バック、ペリカン便、各種チケット類、創作品(学生・教員が作ったもの)

大学生が持っていたら便利な商品

売店に一度ご来店下さい。そこで探してみてください。たくさんありますよ。

おすすめの商品

年代ものの良質な文房具、IT関連商品、安くて栄養バランスのとれた弁当、焼きたてパン、昔懐かしいカンパン、今流行のお菓子、健康飲料

売店の方から一言

教育学部売店創業は昭和28年。50年以上山大内で頑張っています。何でもご相談下さい。30～50代の女性スタッフが対応させていただきます。

教育ラウンジにはTV・DVDも設置されました。ひとときの安らぎをどうぞ。これからも大学で学ぶ様々な方のニーズに応えていきたいと思っております。

農学部売店



取扱商品

文房具、弁当、パン、インスタントラーメン、菓子類、アイスクリーム、ジュース、日用雑貨、白衣

大学生が持っていたら便利な商品

文房具(クリアファイル、蛍光ペン)、レポート用紙、封筒

おすすめの商品

文房具全般、夏はアイスクリーム、冬は肉まん、豊富に揃ったお菓子

売店の方から一言

少し品不足かもしれませんが、すぐに取り揃えることができますので、農学部の方以外の学生さん・教職員にも来て欲しいです。

また、土曜日や平日は21時頃まで営業しておりますので、是非ご利用下さい。

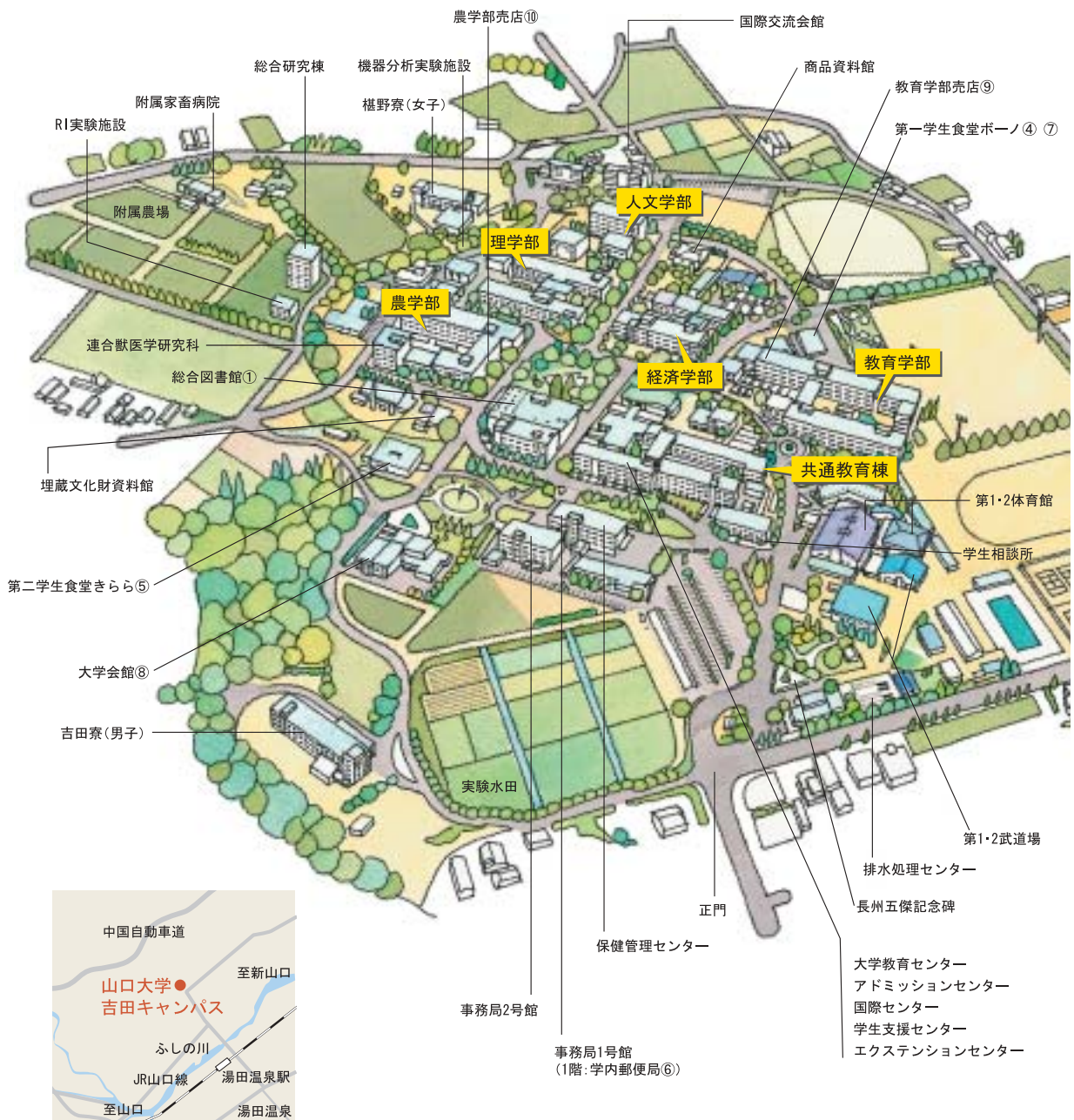
CAMPUS MAP

充実のキャンパスライフはここで始まる

吉田キャンパス 山口市/共通教育・人文学部・教育学部・経済学部・理学部・農学部

YOSHIDA CAMPUS

山口市にある吉田キャンパスは、5学部が集まるメインキャンパス。緑豊かでのびのびとした雰囲気と設備の整った研究施設とで、理想的な教育環境が広がっています。



小串キャンパス 宇部市/医学部

KOGUSHI CAMPUS

医学部の学生が集う小串キャンパスは、宇部市の中心部にありながらも近くの河畔公園から四季を感じることができます。そんな環境のもと、日々活発な教育・研究活動が行われています。



常盤キャンパス 宇部市/工学部

TOKIWA CAMPUS

工学部の学びの場である常盤キャンパス。近くには宇部市の名所「常盤公園」があります。中四国地域の工学部では最大規模を誇り、研究施設も充実しています。



新入生歓迎フェスティバル2006

■ 池谷 周平 山口大学大学祭実行委員会 委員長（経済学部 2年）

新入生歓迎フェスティバルとは

平成18年4月8日（土）に「新入生歓迎フェスティバル2006」が開催されました。この新入生歓迎フェスティバル、通称「新フェス」には山口大学の部・サークルなどの数多くの団体が一度に会して、新入生に自分たちの団体の紹介をするものです。また、様々な企画を通して、各団体や山口大学の雰囲気を知ってもらえるようにしました。私たち大学祭実行委員会は、新入生の皆さんのサークル選びに少しでも役立つよう、また大学生活のスタートが楽しいものとなるような新フェスにしたいと、企画・運営をしてきました。

テーマについて

今回の新フェスのテーマは「開花宣言」でした。私たちはこのテーマに次のような思いを込めました。新入生の皆さんは山口大学という新たな地で新たな生活を始めることとなります。今までとは全く異なる環境の中で、今まで自分でも気付かなかった才能や夢が見つかるかもしれません。そのきっかけとなるのは大学生活、あるいはサークル活動かもしれません。つぼみから花を咲かせるように、新入生の皆さんの中にある無限の可能性をこの山口大学で開花させてほしい、というものです。

新フェスの各企画

今回の新フェスの企画内容について説明します。各団体がブースを出し、新入生と話をするほか、元学生支援課前ロータリーにて特別ステージを設置し、各団体による爆笑パフォーマンスやすばらしい演奏・踊りなど、各団体による熱いステージが繰り広げら

れ、大いに盛り上がりました。また体験コーナーと題し、各団体の普段の活動を体験できる企画を設けました。さらに大学祭実行委員会オリジナルの「巡ってBINGO」という企画もありました。その企画内容は、各団体のブースを巡り、先輩たちと話をした後、各団体がそれぞれ持っているシールをもらいます。ビンゴ台紙の縦・横・斜めに書いてある各色を集めたらビンゴとなり景品と交換、というものです。新入生がより多くのブースに行くきっかけとなるようにと企画したものです。

また今回初の試みとして、第一学生食堂ポーノの協力で新フェスオリジナルの定食を提供することができました。これらの企画も新フェスを盛り上げるものとなりました。これらの企画が次回以降、よりよいものとなるよう工夫していこうと考えています。

今回の新フェス

今回の「新入生歓迎フェスティバル2006」は約2500人の来場者数でした。このように多くの新入生に興味を持ってもらったことをうれしく思います。また、このような新フェスを開催するにあたりお世話になった方々にお礼申し上げます。参加団体と共にこの新フェスを開催することによって、山口大学を盛り上げることに繋がればよいと考えています。

毎回、新フェスでは大学祭実行委員会が独自に、新入生に対してアンケートを行っています。その中で、今回の新フェスに関して「おもしろかった」「サークル選びに役に立った」という声が多く寄せられました。新入生にこのように楽しんでもらったことは、私たちにとっても、とてもうれしいことでした。また、参加していただいた各団体からも様々な意見や感想をいただきました。その中には今後参考になるものもありました。今後、よりよいものに

なるようにしていきたいと考えています。

新入生にとって、この山口大学での生活がより充実したものになるためには、勉強だけではなく様々な人に出会い、様々な経験をするのも大切だと思います。そのためにサークル等の活動に参加してみるというのも一つの選択です。そこでの経験や活動を通して、まだ自分自身でさえも気づいていない能力や性格などの新たな一面が開花するかもしれません。今回のテーマに掲げたように、今後の大学生活の中で自分の新たな一面が開花する経験をした、また自分にあった楽しいサークルを見つけて、充実した大学生活をスタートしているという新入生が多くいることを願っています。



新フェス告知看板

団塊世代に向けた産学公連携の交流型教育事業 「シニアサマーカレッジ」を開催

河野 眞治 教授 経済学部 国際経済学科

山口大学はJTB及び山口県・山口市と協力して、定年退職した団塊世代を対象に、夏休みの期間、キャンパス内で県の文化、歴史などを2週間の長期にわたって学ぶ、「シニアサマーカレッジ」を開催します。

期間は8月28日(月)から9月10日(日)までで、講義内容はシニアの知識欲に沿う内容となっており、文学・社会学・経済学・理科学・医学・工学・農学など多岐にわたっています。

また、地元参加者と全国から募集した地域外参加者が、一緒に大学施設を使い、交流する、日本で初めての本格的な交流型教育事業でもあります。

- 開催場所：山口大学
- 募集人員：300名(最少実施人員30名)
- 参加資格：50歳以上
- 開催期間：8月28日(月)～
9月10日(日)の2週間

- 受講料：130,000円

(受講料に含まれるもの：月～金の20講義、入学式、オリエンテーション・キャンパス見学、ウェルカムパーティー、卒業式、さよならパーティー)

(受講料に含まれないもの：学外研修旅行費用、宿泊代、航空運賃など)

- 登録料：10,000円(ただし、2006年にお申し込みの方は無料)

- ホームページ：<http://www.sscollege.jp>

問い合わせ・お申し込み：

「シニアサマーカレッジ受付デスク」

(JTBロングステイプラザ内)

TEL：03-3246-5765 FAX：03-3246-5769

なるようにしていきたいと考えています。

新入生にとって、この山口大学での生活がより充実したものになるためには、勉強だけではなく様々な人に出会い、様々な経験をするのも大切だと思います。そのためにサークル等の活動に参加してみようというのも一つの選択です。そこでの経験や活動を通して、まだ自分自身でさえも気づいていない能力や性格などの新たな一面が開花するかもしれません。今回のテーマに掲げたように、今後の大学生活の中で自分の新たな一面が開花する経験をした、また自分にあった楽しいサークルを見つけて、充実した大学生活をスタートしているという新入生が多くいることを願っています。



新フェス告知看板

団塊世代に向けた産学公連携の交流型教育事業 「シニアサマーカレッジ」を開催

河野 眞治 教授 経済学部 国際経済学科

山口大学はJTB及び山口県・山口市と協力して、定年退職した団塊世代を対象に、夏休みの期間、キャンパス内で県の文化、歴史などを2週間の長期にわたって学ぶ、「シニアサマーカレッジ」を開催します。

期間は8月28日(月)から9月10日(日)までで、講義内容はシニアの知識欲に沿う内容となっており、文学・社会学・経済学・理科学・医学・工学・農学など多岐にわたっています。

また、地元参加者と全国から募集した地域外参加者が、一緒に大学施設を使い、交流する、日本で初めての本格的な交流型教育事業でもあります。

- 開催場所：山口大学
- 募集人員：300名(最少実施人員30名)
- 参加資格：50歳以上
- 開催期間：8月28日(月)～
9月10日(日)の2週間

- 受講料：130,000円

(受講料に含まれるもの：月～金の20講義、入学式、オリエンテーション・キャンパス見学、ウェルカムパーティー、卒業式、さよならパーティー)

(受講料に含まれないもの：学外研修旅行費用、宿泊代、航空運賃など)

- 登録料：10,000円(ただし、2006年にお申し込みの方は無料)

- ホームページ：<http://www.sscollege.jp>

問い合わせ・お申し込み：

「シニアサマーカレッジ受付デスク」

(JTBロングステイプラザ内)

TEL：03-3246-5765 FAX：03-3246-5769

TOPICS

シニアサマーカレッジ講義スケジュール

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
8月28日(月)				シニアサマーカレッジ 山口大学 入学式 <11:30~12:30 予定>		オリエンテーション・キャンパス見学 <13:30~16:00 予定>				ウェルカムパーティー <17:00~18:00>
8月29日(火)		住み良さ日本一の元気県 やまぐち 山口県知事 二井関成			土の微生物とその働き 学長 丸本卓哉			近世後期山口町における 木地榎の流通 教育学部 助教授 森下徹		
8月30日(水)		地域金融機関の果たす役割 西京銀行 頭取 渡邊孝夫			自由行動					
8月31日(木)		超高齢社会で迎える高齢期を考える -山口県の状況が投げかける課題- 経済学部 助教授 鍋山祥子			長州ファイブ 萩市長 野村興兒			次の大地震はいつどこ？ マイクロプレート理論によるシナリオ 理工学研究科 教授 金折裕司		
9月1日(金)		細胞の進化 -細胞内共生による真核細胞の多様化- 理工学研究科 教授 藤島政博			雪舟庭とともに歩んだ80年 山口市観光ボランティアガイドの会 顧問 市川益子			萩に生きる作陶の伝統 -正統の技法・破格の造形 山口県立美術館・浦上記念館 学芸員 石崎泰之		
9月2日(土)	学外研修旅行									
9月3日(日)										
9月4日(月)		地域社会の高齢化と生涯現役社会づくり 山口県立大学 社会福祉学部 教授 高野和良			日本と東アジアの競争力 経済学部 助教授 尹春志			生活習慣病と身体活動 ~シニアライフをいきいきと健やかに~ 医学系研究科 講師 上田真寿美		
9月5日(火)		暮らしの中の気象豆知識 農学部 教授 早川誠而			「企業は人なり」の経営 住宅関連機器メーカーから半導体関連機器メーカーへ 長州産業株式会社 代表取締役社長 岡本要			山口の文学と歴史 -中原中也を中心に- 中原中也記念館 館長 福田百合子		
9月6日(水)		電波で見た宇宙の姿 理工学研究科 助教授 藤澤健太			自由行動					
9月7日(木)		日本語はあなどれない 人文学部 教授 添田健治郎			山口県の橋 -古い橋、新しい橋- 理工学研究科 教授 宮本文穂			萩藩における港町の発展と越荷方 経済学部 助教授 木部和昭		
9月8日(金)			シニアサマーカレッジ 山口大学 卒業式 <10:30~11:30 予定>		自由行動					さよならパーティー <17:00~18:00>
9月9日(土)	学外研修旅行									
9月10日(日)										

学内連絡先

TEL : 083-933-5548

E-mail : kawano@yamaguchi-u.ac.jp

活断層露頭の保存施設が完成しました

■ 金折 裕司 教授 大学院理工学研究科 自然科学基盤系専攻



大発見！

阿東町篠目中郷の国道9号線から北約200mの地点で、一般県道迫田篠目線の道路工事に伴う法面掘削により、素晴らしい活断層露頭が現れました。この露頭は、理工学研究科博士前期課程の森岡達也君がフィールドワーク中に発見したものです。露頭を発見した翌朝、彼は1枚の写真を持って興奮した面持ちで、私の研究室に飛んで来ました。写真を見た瞬間にこれは大発見だと直感して、森岡君とともに直ちに露頭調査に出かけることにしました。

貴重な露頭を保存したい

このような活断層露頭は学問的に大変貴重であるばかりでなく、地震防災上貴重なデータを提供してくれます。工事によって法面が保護されると、貴重な活断層露頭が失われてしまいます。そこで、露頭調査を終えるとその足で、工事を担当する山口県阿東土木事務所を訪れました。突然の来訪にも関わらず、現場の担当者や事務所長さんに活断層露頭の保存に理解を示して頂きました。すぐさま、断層露頭中央部の3×3mの範囲を保存することに話がまとまり、土木事務所の方で保存施設の設計および施工して頂けることになりました。

世界でたった一つ

このような保存施設はこれまで施工例がなかったため、何度か現地で打ち合わせをして設計を固めました。まず、保存部分の外周が40cmほど掘り下げられて、幅30cmのコンクリートの外枠が打設されました。次に、外枠に強化ガラス板の入ったアルミサッシの取付けが行われました。保存施設の表面は、縦方向に仕切られた3枚の強化ガラス板(厚さ10mm)で覆われ、その内中央のガラス板が左にスライドするように工夫されています。また、その近くには、断層露頭の説明を書いた立派な案内板が立てられました。



野外実習中に保存施設を訪れた理学部地球圏システム科学科3年生に、筆者が活断層露頭の説明をしている様子 (平成18年3月27日撮影)

断層ガウジと地震

この保存施設内では、中央部に上下方向に延びる白～灰白色の断層ガウジ(破砕で生じた細粒物質)がはっきりと確認できます。その下部には、断層ガウジを伴う断層面を境にして、北側には破砕した基

TOPICS

盤岩が高さ約1 mにわたって露出しています。この基盤岩は、恐竜の棲んでいた白亜紀に堆積した凝灰岩です。基盤岩を覆う礫層中には薄い砂層やシルト層が挟まれています。断層の南側には直接礫層が分布しています。断層に切られた砂層の放射性炭素年代から、大原湖断層系に属する木戸山西方断層が約7千年前以降に地震を起こしたことが分かりました。

保存施設の完成

設計と施工を担当された方々の努力の結晶として、世界でたった一つの貴重な活断層保存施設が完成し

ました。地震の研究者のみならず、地震に関心をもたれている多くの方々が訪れられることと期待しています。また、地球科学の生きた教材として、大学教育にも活用したいと思っています。

学内連絡先

TEL : 083-933-5753

E-mail : kanaori@yamaguchi-u.ac.jp

URL : <http://ykl.sci.yamaguchi-u.ac.jp/>



保存施設施工以前に行われた一般公開説明会の様子
(平成17年10月8日撮影)

シンポ「活字文化があぶない！メディアの役割と責任」 のパネリストとして参加

■ 山本 哲朗 教授 大学院理工学研究科 システム設計工学系専攻



発言する筆者
(社) 共同通信社提供

経緯

突然、3月上旬、毎日新聞本社から研究室に電話が入りました。4月6日に開催される公開シンポジウム「活字文化があぶない！—メディアの役割と責任」（主催：日本新聞協会、後援：文化庁・日本書籍出版協会等）でのパネルディスカッションのパネリストの一人として参加して欲しいという依頼でした。

依頼のきっかけは、私が毎日新聞（2004年8月17日付け）の“みんなの広場”に「大学生に10分間読書を実践」を投稿しており、活字離れ対策に積極的に貢献しているということでした。あまりに唐突な御願ひでありましたが、大舞台に参加させて頂く機会は今後おそらくない、また山口大学の名が全国紙に掲載されるという思いで、二つ返事をいたしました。

メンバーに腰砕け

コーディネーターおよび他のパネリストは、錚々

たる方々でした。

コーディネーター：藤田博司氏（現早稲田大学客員教授、東京外国語大学卒業、共同通信社入社、ワシントン支局長、上智大学教授等歴任）

パネリスト：①鹿島 茂氏（現共立女子大学文芸学部教授、東京大学大学院修了、「子供より古書が大事と思いたい」で講談社エッセイ賞等を受賞）

②鈴木秀美氏（現大阪大学法科大学院教授、慶應義塾大学法学部卒業、著書に「メディアの法理と責任」等があります。

③山川洋一郎氏（現弁護士、東京大学法学部卒業、虎ノ門法律事務所入所、日本テレビ番組審議会委員等を歴任）

④山本哲朗（現山口大学教授大学院理工学研究科、山口大学工学研究科修了、(社) 日本地すべり学会理事等、著書に「防災授業 僕たち自然災害を学び隊！」等があります）

パネルディスカッション

4月6日（木）、東京都内幸町「プレスセンターホール」で作家の柳田邦男氏による基調講演「危機の活字文化とメディア」の後、15時30分ころから18時までパネルディスカッション「活字文化があぶない！メディアに問われるもの」が開かれました。参加者は約400人でホールは満席でした。

最初にテーマ①「活字文化の危機」の現状をどうみるか、②「危機」をもたらしたものの、③「危機」とメディアの役割、④「危機」克服のために、の中から1つのテーマについて1人当たり10分間発言しました。その後、それらの発言を中心として1人5分の討論を行いました。この内容は共同通信社が取り纏め、4月12日（水）に3大紙の他、日本新聞協会に加盟しているすべての新聞に掲載されました。

TOPICS

2社の新聞の見出しは次のようです。藤田氏：「電車で読書」今は昔、鹿島氏：ネット、短絡思考招く、情報格差で混乱も。鈴木氏：人権口実に報道規制、乱暴な規制緩和論。山川氏：多様な論調守る宅配、公取委に説明責任。山本：新聞通じた教育期待、表現力低下を危惧。公正取引委員会が進める特殊指定の見直しに反対する発言は、北村正任氏（日本新聞協会会長）の最初の挨拶で強調されたことと符合します。新聞業の特殊指定とは、差別定価や定価割引等を禁止して、その流通システムを守り、維持するために定められたものです。

最後に、私のまとめの発言を新聞から抜粋しておきます。「話す能力、あるいは考える能力、これを小学校の頃から家庭内で徹底しない限り、活字文化

離れは免れない。新聞もその一つの手段であり、小さい頃から新聞になじませるような指導を両親がしていけないといけない。僕の感じでは、学校に何もかもを期待し、学校側も手を施しすぎていると思う。一生懸命に考える習慣さえ身につけておれば、分からなければ分からないでいいのではないか。みんなが分かろうとするからおかしくなる。一緒に手をつないで走る運動会と同じようなものだ。後で努力すれば何とかなる、そのような教育を期待するし、新聞の役割も当然その中に入っている。」

学内連絡先

TEL：0836-85-9302

E-mail：tyamamot@yamaguchi-u.ac.jp



パネルディスカッションの会場の様子
(社) 共同通信社提供



コーディネーターとパネリスト
(左から藤田氏、鹿島氏、鈴木氏、山川氏、筆者)
(社) 共同通信社提供

セメント新聞寄稿

「防災の観点から見た地盤改良—セメント系固化材の有効性」

■ 山本 哲朗 教授 大学院理工学研究科 システム設計工学系専攻



経緯

私の研究室では地震や集中豪雨による土砂災害の現地調査、セメントやセメント系固化材による地盤改良の研究を進めています。そのためか、(社)セメント協会主催の特別講演で「最近の地震と豪雨による地盤災害とセメント系固化材による地盤改良」について本年1月、3月にそれぞれ東京都、仙台市で講演しました(写真1)。その後、セメント新聞から特別講演で話した内容を寄稿する機会が与えられ、本年3月20日にセメント新聞に掲載されました。



写真1 仙台市における(社)セメント協会主催の固化工法を用いた構造物の基礎セミナーで講演する筆者 ((社)セメント協会提供)

最近の地震被害

平成16年10月23日、新潟県中越地方においてマグニチュードM6.8、最大震度7の地震が発生しました。新潟県中越大震災災害対策本部の発表(平成18年2月1日10時現在)では、死者59名、重軽傷者4,795名をはじめ多くの住家が被害を受けました。私たちは現地調査に赴き、道路盛土やため池堤体など盛土構造物の損壊、地震動により風化した表層土の崩落、山古志村寺野に出現した大規模な地すべりによる河道の閉塞(地すべりダム)を確認しました(写真2)。

中越地震の約5ヶ月後、平成17年3月20日に福岡県西方沖地震(M7.0)が発生しました。この地震によって福岡ならびに佐賀において震度6弱が観測され、玄界島をはじめとして福岡市周辺を中心に被害が生じました。地盤の液状化は博多湾沿岸の埋立て地のほぼ全域で広範囲に発生しており、シーサイドもち海浜公園では噴砂が起き、10cm程度の盛土地盤



写真2 新潟県中越地震の時、山古志村寺野芋川で発生した地すべりダム

の沈下が認められました（写真3）。私たちの調査によると、震源域に最も近い玄界島では家屋の被害が甚大であり、その原因は、まさ土（風化した花崗岩類を主体とする土）で切り盛土された宅地が地震時に大きく変状したためです。

最近の豪雨災害

平成16年は台風4号に始まる台風10個の上陸などにより、死者・行方不明者数230名以上など各地に大きな被害が発生しました。また、昨年は台風14号による豪雨によって九州・四国・中国地方において多くの地盤災害が発生しました。台風14号は平成17年8月29日にマリアナ諸島付近の海上で発生し、広い暴風域を維持したまま、時速10-20キロメートルの比較的ゆっくりとした速度で進んだため、長時間にわたって暴風・高波・大雨が続き、各地で土砂崩れや堤防の決壊などが相次ぎ、多種の被害が発生しました。山口県では台風14号が九州に上陸した9月6日14時頃から強い雨が降り出し、崖崩れや土石流が発生した他、山陽自動車道岩国IC~玖珂IC間の上り線では盛土の崩壊に起因した路盤の損壊が発生し、3名の方が亡くなりました。また、道路・橋梁の損壊や広域の浸水被害が発生しました。災害発生時刻は15時前後が多く、ところにより累積雨量532ミリ、時間雨量59ミリの記録的豪雨を観測しました。

防災でのセメント系固化材の有効性

セメントやセメント系固化材を用いた地盤改良工法は、よく行われます。私の研究室では最近5種類のセメント系固化材を用いて安定処理した6種類の土に対して一軸圧縮試験から繰返し三軸試験までの土質せん断試験を実施し、養生時間や添加量が種々異なる条件下での処理土の強度・変形特性を調べました。その結果、安定処理土の一軸圧縮強さや繰返しせん断強度の発現は土質と固化材の種類によって著しく異なること、さらに土質および固化材の種類によらず繰返しせん断強度は一軸圧縮強さから近似式で推定することができました。現在は、上載圧下で処理土を養生できるモールド型圧密養生装置を開発し、養生中の処理土が受ける拘束圧の影響や地震・豪雨の際に崩壊し易い盛土の安定性へのセメント安定処理の有効性に関する研究を進めています。今後はセメントやセメント系固化材による土質改良が防災面においてより一層活用される必要がとを考えています。

最後にセメント新聞の寄稿に際しては、私の研究室の鈴木素之助手から貴重なアドバイスをいただきました。ここに記して感謝の意を表します。

学内連絡先

TEL : 0836-85-9302

E-mail : tyamamot@yamaguchi-u.ac.jp



写真3 福岡県海の中道海浜公園で発生した盛土崩壊

埋蔵文化財資料館 平成18年度常設展 『山口大学の遺跡～吉田遺跡展～』を開催中

■ 横山 成己 助手 大学情報機構 埋蔵文化財資料館

遺跡にまっすぐ山口大学

皆さんは「遺跡」という言葉を聞くとどのようなものをイメージしますか？ ある人は吉野ヶ里遺跡や三内丸山遺跡など国内の著名な集落遺跡を、ある人はピラミッドや万里の長城など海外の巨大遺跡を、またある人は近頃話題となっている高松塚古墳やキトラ古墳などの華麗な装飾壁画を思い浮かべるかもしれません。

実は、遺跡とはそれほど特別な存在ではありません。遺跡とは、広義的には「過去の人類が残した痕跡」が存在する場所の全てを意味します。従って、現在までに遺跡として認識されている土地は日本中に無数に存在しているのです。

実際に山口大学の県内の主要な5カ所の構内（山口市…吉田地区・白石地区、宇部市…小串地区・常盤地区、光市…光地区）は、全て遺跡の上に立地しています。埋蔵文化財資料館は、これらの構内遺跡を調査・研究する組織として昭和53年(1978)に設置されました。当館の大きな特徴は、構内遺跡の発掘調査を実施するばかりでなく、その調査成果を常設展・企画展として学内外に広く公開することにより、大学教育での活用はもちろんのこと、市民の皆様が気軽に利用できる社会へ開かれた教育施設となっている点にあります。

平成18年度の常設展

今年度の常設展は、『山口大学の遺跡～吉田遺跡展～』というタイトルで、山口市吉田構内の遺跡である吉田遺跡に焦点をあてました。吉田遺跡は、旧石器時代から江戸時代にかけての全時代の遺構や遺物が出土する、県内でも著名な複合集落遺跡です。特に吉田構内第一学生食堂（ポーノ）の隣で発見さ

れた弥生時代の集落跡は、貴重な学術資料として後世にまで引き継ぐべく、調査後に埋め戻され現在は「遺跡保存公園」という名称の野外博物館となっています。

今回の常設展では、吉田遺跡から出土した各時代の遺物（土器や石器など）を一同に展示することにより、私たちが日々学び働いているこの吉田の地の約3万年前から約300年前までの人類の歩みや歴史環境の復元に挑んでいます。ご覧になる際には、実物資料を一つ一つじっくりと観察して下さい。土器一個、石器一個の形や製作技法の背景には、当時の人々の知恵や精神文化などが隠されているのです。また、展示室では山口大学が吉田地区に統合移転する際に行われた40年前の発掘調査の映像記録をビデオで公開しています。移転当時の吉田地区を知る方には懐かしい風景、知らない方には新鮮な風景だと思えます。



教育学部授業での観覧風景

TOPICS

展示を見学した後は…

遺跡の上でその遺跡について学べる機会というものは、そう頻繁にあるものではありません。展示をご覧になった後は、是非ゆっくりと吉田構内を散策してください。そこには日頃見慣れた校舎やグラウンドではなく、生き生きと暮らす古代人の姿が見えてくるはずです。

常設展示の開催期間は4月3日(月)～9月29日

(金)までとなっています。まだご覧になっていない方は、お気軽に足を運んで下さい。館員一同心よりお待ちしております。

学内連絡先

TEL/FAX：083-933-5035

E-mail：yuam@yamaguchi-u.ac.jp



常設展ポスター



平川小学校の集団見学

長州五傑に想いを馳せて (学術交流協定記念式典)

■ 筒井 悟 総務部総務課総務係長

4月26日(水)、ロンドン大学(英国)との学術交流協定(予定)を記念する式典を開催しました。私たち式典の準備を進めてきた者にとっては、当日の天候が何よりも気になるもので、数日前から、天気予報とにらめっこしては、一喜一憂していました。前日の予報では、降水確率80%の最悪の数字を示しており、雨天の場合の式典の進行はどうしようかとかなりブルーな気持ちになっていました。

さて、当日、朝起きてすぐに部屋のカーテンを開け、空を見上げると今にも降り出しそうなどんよりの重い雲が張りつめており、雨が降らないでいつまでもってくれることやらと不安な気持ちでスタートしたのです。とにかく、屋外で実施される午前中の長州五傑記念碑除幕式典だけは、雨が降らないで欲しいと祈りながら準備をしていました。

私の純粋な祈りが通じたのか、除幕式典の始まる

午前11時頃には、薄日も差すようになり、滞りなく式典を実施することができたのは何よりでした。

長州五傑記念碑除幕式典

午前11時から、長州五傑記念碑除幕式典を挙行之、グレアム・フライ駐日英国大使をはじめとした来賓及び大学関係者等約100名が出席しました。長州五傑は、1863年(文久3年)にロンドン大学に留学した、井上 馨、遠藤謹助、井上 勝、山尾庸三及び伊藤博文の5名で、日本の近代化のために尽くした、山口県の誇りであります。除幕は、駐日英国大使、河村建夫衆議院議員代理(秘書)、二井山口県知事、池本山口日英協会会長、松野山口大学特別顧問、加藤学長(当時)及び丸本副学長(当時)の7名が行いました。



除幕式の様子

(左から、池本山口日英協会会長、河村衆議院議員代理(秘書)、グレアム・フライ駐日英国大使、加藤学長(当時)、二井山口県知事、松野山口大学特別顧問、丸本副学長(当時))

特別講演会

午後1時30分からは、大学会館大ホールにおいて特別講演会を開催し、約150名の聴衆の中、加藤学長（当時）は「長州五傑に学ぶこと」、グレアム・フライ駐日英国大使は「英国と日本の交流」をテーマに講演し、その後、宮崎国際センター長によるロンドン大学学長からの書簡紹介、松野山口大学特別顧問から駐日英国大使へ特別記念品（目録）の寄贈がありました。

レセプション

午後3時30分からは、第2学生食堂「きらら」において、レセプションを催し、約50名が出席し、加藤学長（当時）の挨拶の後、池本山口日英協会会長の乾杯の音頭で宴が始まりました。グレアム・フライ駐日英国大使はとても気さくな方で、何方にも気

軽に話しかけられ、レセプション会場は大使を中心に懇談の輪が広がり、日英交流推進の一端を担う有意義な式典となりました。

長州という同じ地域から、一度に5人もの若者が、同じ目的を持って、英国に留学したことはもちろん、5人全員が一人も欠けることなく、英国の民主主義・資本主義を学んで日本に帰国し、各々が日本の新体制における表舞台で要職に就き、日本の近代化に多大なる貢献をしたということは奇跡的なことだと思います。「長州五傑」という、偉大な先輩を育んだ山口に生まれたことに誇りを持つと同時に、「長州五傑」が成した偉業に想いを馳せるのに良い機会となった一日でした。

学内連絡先

TEL：083-933-5010

E-mail：sh012@yamaguchi-u.ac.jp



レセプション風景

（左から、中澤監事、グレアム・フライ駐日英国大使、池本山口日英協会会長）

「大学コンソーシアムやまぐち」の 設置について

■ 土田 誠 総務部企画課企画係 企画主任



コンソーシアム設立記者会見

コンソーシアム設置の経緯

去る5月31日（水）に山口グランドホテルに於いて、「大学コンソーシアムやまぐち」設置に係る第1回の代表者会議と記者会見が行われました。

この大学コンソーシアム設置の構想については、一昨年の「山口県大学等懇談会（県内高等教育機関〔現在11機関〕の代表者間における定期会合）」において提案があった後、本学としても、『山口大学長期目標』に掲げる方針・目標に沿って、学長主導の下に組織形成のために尽力することとなりました。具体的な経過としては、昨年1月に上記の懇談会構成機関にアンケート調査を実施し、その調査結果を受けて、昨年5月に検討会を開催、以降、設置準備委員会を立ち上げ、約1年間にわたり設置準備のための検討がなされ、晴れて5月31日にコンソーシアムが設置されました。

第1回の代表者会議では、コンソーシアムを構成する県内の11機関の代表者が出席し、組織に関する規約の承認、役員の選出及び今年度事業計画の確認などが行われました。

また、引き続き、記者会見が行われ、コンソーシアム会長に就任した丸本学長から設置の経緯等について説明があった後に質疑応答が行われました。



コンソーシアム代表者会議（右端が筆者）

コンソーシアムの目的

今回のコンソーシアムの設置については、「山口県の高等教育機関が相互に連携・協力し、県内の高等教育全体の質的向上に資するとともに、地域社会へ貢献すること」を目的としており、今後は、①県内の大学をはじめとする高等教育機関の情報提供や広報に関わる事業、②公開講座等の生涯学習に関わる事業及び、③高等教育機関相互又は地域社会との交流・連携に関わる事業などを中心とした様々な事業等を展開することによって、その実現を目指すのであります。

大学コンソーシアムやまぐち

【コンソーシアムの目的】

山口県の高等教育機関が相互に連携・協力し、県内の高等教育全体の質的向上に資するとともに、地域社会へ貢献することを目的とする。



コンソーシアム概要

今後の展開

当面は、連携・協力内容の具現化や、組織構成や予算等の将来計画など、コンソーシアムの運営上必要な事項について検討を進めるとともに、連携・協力の可能な事業等については、組織の身の丈に合わせて「できるものから1つずつ」実施していくことで合意されております。

また今後は、山口県域に生まれたコンソーシアムとして、地域性や各構成機関の独自性を生かし

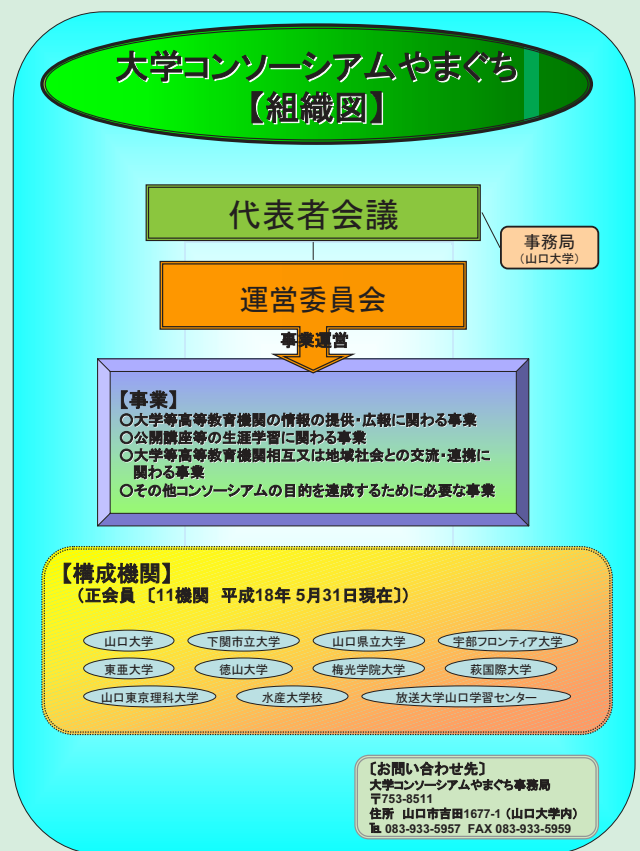
た「魅力ある」組織となるべく、本学としても組織の中心的な立場として、積極的にコンソーシアム運営に携わっていくこととなります。

学内連絡先

TEL : 083-933-5957

E-mail : sh041@yamaguchi-u.ac.jp

大学コンソーシアムやまぐち 【組織図】



コンソーシアム組織図

私の授業

生き物から学ぶ



山中 明 助教授

大学院医学系研究科 応用分子生命科学系専攻
(理学部 生物・化学科)

昆虫を捕まえた経験は何处へ

陽気の良い日の授業、学生に「今日、家を出て大学に来るまでに、どんな虫や花を見ましたか？」と尋ねても、ほとんど返事はありません。小さな子供たちは、庭の畑や花壇に潜んでいるダンゴムシやアリ、花に集まるチョウを捕まえ、興味津々の眼差しで生き物を観察しています。

大学生の目には、普段、一体何が映っているのでしょうか？わき目もふらず勉学に勤しんでいるの？大学で「知識」を身につけることも大事ですが、ここ山口の「自然」と無関係に過ごすのは大変もったいないことだと思います。

「細胞」と「個体」をつなぐ

私の担当している授業は、理学部自然情報科学科(来年度からは、同学部生物・化学科)の学生を対象とした「動物生理学」、「昆虫生理学」、「生物学実験I・II」、「生物学演習III」などです。

「動物生理学」と「昆虫生理学」は「生理学」という文字が示すように、「細胞」と「個体」の間をつなぎ、大きな視点から生命現象を捉えることができるようになることを授業の目標の一つに定めています。「動物生理学」では臓器の構造やしくみ、動物種によるそれらの違いを教え、その中で、どのように動物は進化してきたのか？ということを考える学生が出てくることを、私は期待しています。

また、学生に「虫はなんで、‘むし’と言うの？」と尋ねても、返事はありません。そこで、「昆虫生理学」は、昆虫という生物を改めて一から勉強して

みよう！という昆虫の生物学の授業です。具体的には、昆虫の体のつくりから始まり、脱皮・変態、発生、環境適応、行動などを教えています。

毎年、1年生を対象にした授業に虫を持っていくと、“気持ち悪い！”“触りたくない！”“きゃあ！動いた！”との声が上がります。勿論、生きていますから動きます。

是非とも、3年生で私の授業を履修し終わったら、捕虫網などを持って生き物を捕まえ、学問をする目を持った視点から、生き物を観察し、問題を見つけ解決することのできる学生になって頂きたいと思っています。

‘溝’の克服

新聞の社会面や産業面を読むと、バイオテクノロジーや分子生物学を駆使した学術成果や医療技術の開発などのさまざまな話題が毎日のように掲載され、私たちの日常に「バイオ」とか「ゲノム」という言葉が浸透してきています。大学を目指す高校生にとって、とても興味を惹かれる分野として「生物」があると思います。しかしながら、‘大学の授業で学ぶ生物学’と‘日常生活の中の情報から得る生物の話’との間には‘溝’が存在します。

私の授業が少しでもこの‘溝’を埋め、学生に学問として「生物学」を学ぶ楽しさが芽生えてきたら幸いだと思っています。



昆虫生理学の授業

学内連絡先

TEL : 083-933-5720

E-mail : yamanaka@yamaguchi-u.ac.jp

私の研究

細胞分化の遺伝子メカニズム



村上 柳太郎 教授

大学院医学系研究科 応用分子生命科学系専攻
(理学部 生物・化学科)

私は細胞分化の仕組みを研究しています。動物の受精卵は細胞分裂を繰り返して多数の細胞から成る“胚”を作りますが、胚の細胞はやがて機能や性質の異なるさまざまな細胞へと分化します。細胞にはその生物を作るための情報が書き込まれたDNA (= 遺伝子)が入っています。細胞の種類に応じて一部のDNAが割り当てられる、というようなことはなく、どんな種類の細胞でも含まれるDNAは、受精卵のDNAと同一です。だから一個の細胞からクローン動物を作ることが可能なのです。DNAに細胞分化の仕組みを解き明かす鍵があることは明白ですが、私が大学院生として研究を始めた1980年代前半には、多細胞動物の発生に関わる遺伝子の機能を調べることは技術的に困難でした。1985年に山口大学理学部に職を得てからの数年間は、それまでの研究を継続しながらも、細胞分化を遺伝子レベルで解析するための新たな研究テーマを模索し続けました。

ショウジョウバエとの出会い

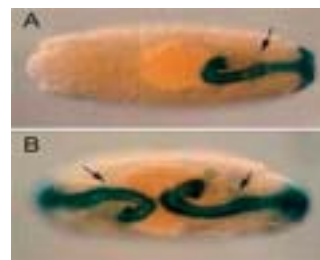
発生生物学の分野では1990年前後に実験手法に関わるいくつかの革新がありました。そのひとつが、ショウジョウバエの新しい遺伝子を見つけるエンハンサートラップ法です。詳細は省きますが、この方法によって、まだ分離されていない未知の遺伝子の発現パターン、つまり、体のどの部分でその遺伝子が働いているかを、顕微鏡を覗いて観察できます。幸運なことに、この手法を日本で最初に導入した九州大学の谷村研究室と共同研究していた松本顕さんが、1990年に本学の生物学科スタッフの一員に加わりました。そのおかげで、エンハンサートラップ法のみならず、普通はなかなか手を出せないショウジョウバエ遺伝学のイロハを手ほどきしてもらえること

ができました。ショウジョウバエ発生遺伝学の世界には、天才的な研究者がウヨウヨひしめいており(1995年には3人のショウジョウバエ研究者がノーベル賞受賞)、新規参入の敷居は恐ろしく高いものを感じられました。しかし当時の研究の大半が体節構造か脳を対象としていたので、私は殆んど手付かずの消化管に活路を求めました。消化管は構造が単純で地域ごとに細胞が異なっており、細胞分化の実験系として理想的なのです。

細胞分化のメカニズムに迫る

エンハンサートラップ法の本格的なスクリーニングを開始して半年後、消化管の後半部である後腸を決定する遺伝子*byn*を見つけました。遺伝子のクローニング(分離すること)には大いに手こずり、論文に出来たのは1995年のことです。胚の後腸は異なる細胞から成る6種類の区画に分かれています。が、*byn*はこれらすべての細胞分化に必要な遺伝子プログラムを動かすマスター遺伝子であることがわかりました(下図)。区画が形成される過程は博士課程の高島茂雄君が5年がかりで解明しました。後腸原基の後端部から放出されるシグナル因子が引き金となり、ひとつの区画が分化します。するとそこから別のシグナル因子が出され隣の区画を誘導する、という具合に区画が生じるのです。また、消化管の主要部である中腸を決定する遺伝子が昨年、奥村高志君によって同定・クローニングされました。これらの研究成果によって、「ショウジョウバエ消化管の発生を研究している」と胸を張って言えるようになりました。

最近の大きなニュースは、消化管の左右非対称性に関する東京理科大学(松野研究室)との共同研究が、Nature誌に掲載されたことです。モーター的な役割を担うミオシンが、左右の方向を決めていたのです。



*byn*遺伝子を食道に発現させると、食道が後腸に転換する(Aは正常胚、Bが*byn*発現による後腸の重複を背中側からみたもの。消化管は左右非対称な屈曲を示しています。)

学内連絡先

TEL : 083-933-5696

E-mail : ryu@yamaguchi-u.ac.jp

私の研究

統計的パターン認識との25年



浜本 義彦 教授

大学院医学系研究科 応用分子生命科学系専攻

はじめに

パターン認識とは、認識すべき対象を、それが属すべきクラスへ対応づける機能として定義されます。このパターン認識を基に、コンピュータが人間と同じように文章を理解することや人の話を理解することが可能となり、今日では指紋照合や顔認識でセキュリティ分野にも適用されるなど、パターン認識技術は多くの分野で浸透しています。パターン認識の研究は現代型コンピュータの誕生とともにスタートし、その黎明期から今まで長年研究されてきたのが、統計的パターン認識です。私は、統計的パターン認識の研究に大学院時代から携わって今年で25年になります。以下、私の統計的パターン認識研究への取り組みを述べさせていただきます。

実際と理論とのギャップ

大学院修了後、認識関係の事業を幅広く行っている会社に入社し、文字認識の研究開発に取り組みました。そこで、統計的パターン認識の理論がまったく役に立たない、という現実を思い知らされました。実際を無視して理論的興味を追求したが為に、理論の前提が非現実的となっていたのです。現場では、発見的アプローチと言えば聞こえが良いのですが、試行錯誤の場当たりのアプローチでした。本当に理論は役に立たないのであろうか、実際を踏まえた理論的アプローチに期待は持てないのであろうか、と

思いを巡らせていました。そのような時に、恩師から戻って来ないかとお誘いを受け、即座に大学に復帰することを決意しました。

大学に戻ってから、退路を断つ意味も込めて文字認識の研究を止め、会社時代の疑問を解消すべく統計的パターン認識の理論的研究をスタートさせました。統計的パターン認識は、認識対象から認識に関わる重要な情報を抽出する特徴抽出系に関する研究と、認識対象の識別を行う識別系に関する研究に大別されます。識別系の研究は活発で多くの研究者が参入していますが、より重要であるにも関わらず特徴抽出系に取り組む研究者は世界的に見ても少ないのが実態です。これは、認識対象の個別性が強く影響する特徴抽出系よりも一般論を展開でき、しかも評価が容易にできる識別系の方を研究者が好んだからです。私は、より本質的で重要である特徴抽出系の研究を選びました。従来は経験的に研究されてきた特徴抽出系を理論的に体系だって研究し、その成果で博士号を取得しました。

博士号を取得後、これからの研究をどのように進めるべきか考えていた頃、パターン認識の分野で最大の国際会議がアメリカで開催され、博士号に関わる特徴抽出系の研究を発表しました。この国際会議で、サンプル数が少ないとパターン認識理論は破綻し、これへの対策が極めて重要であるとの講演がありました。この講演は、私にとって大変インパクトがあり、その後の研究方向を決定付けるものでした。正に会社時代に疑問に思っていたことの本質がそこにあったのです。これを機に、small sample size 問題を集中的に研究することになりました。しかし、small sample size 問題は簡単に解ける訳でなく、この研究を続けることは論文で評価される教員にとって論文が出にくいという厳しい面がありました。それでも諦めずに一步一步前進し、10年かけて問題解決の糸口がようやく見えてきました。

ヒトゲノム解析との出会い

そのような時、新たな転換が訪れました。それがヒトゲノム解析との出会いです。人間の体は遺伝子の発する情報に基づいて生成されますが、この遺伝子の発する情報をDNAマイクロアレイにより観測する技術が医学の分野で急速に浸透してきました。

このDNAマイクロアレイという新しいセンシング技術を用いて肝臓の再発を遺伝子レベルで予測することが解くべき問題です。これを統計的パターン認識の言葉で解釈すると、以下ようになります。まず患者が認識対象であり、患者は遺伝子発現量により数値化され、数千の遺伝子の中から再発の予測に有用な遺伝子を選択することは特徴選択問題に他ならず、そのような標的遺伝子群を用いて患者が再発するか否かを予測することは識別問題そのものです。つまり表面的には異なる分野の問題であっても、数学の問題として定式化すれば共通の問題となるわけです。

ここまでは、肝臓再発予測問題が統計的パターン認識の問題として定式化される、ということで話が簡単な印象を与えていますが、そこにはヒトゲノム解析固有で致命的とも言える問題が潜んでいました。それは、遺伝子の数に比べ症例数が圧倒的に少ない、統計的パターン認識の言葉では次元数に比べサンプル数が圧倒的に少ない、という問題であり、これは上述のsmall sample size 問題でも深刻な部類に入るものでした。そこで、それまでの研究成果をこの肝臓再発予測問題へ適用し、93%の予測率という世界最高の予測精度を達成することができました。こ

の成果は、医学部の先生方と共著で臨床の世界では一流雑誌でありますLancetに掲載されました。それ以来、医学部の先生方との研究が続き、これを受けてこの4月に応用分子生命科学系専攻の一員となり、統計的パターン認識によるオーダーメイド医療の実現を目標に、日々研究を進めています。

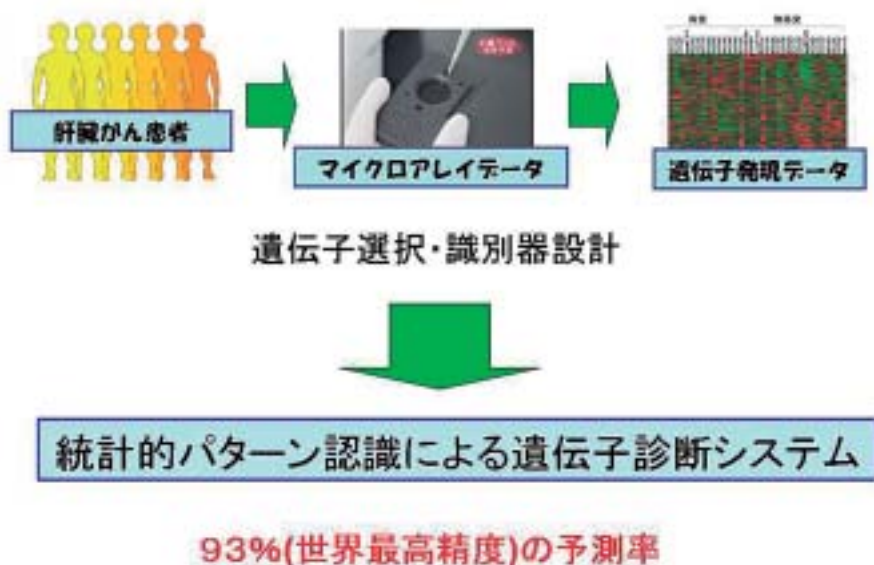
おわりに

以上、統計的パターン認識の研究に取り組んだ25年を振り返りましたが、大事な点は、流行に惑わされずに当該分野の本質的な問題を一生涯の問題とすることです。私の場合はsmall sample size 問題であり、これは難攻不落で、まだまだ楽しめます。多忙な今の若い人たちには酷かもしれませんが、人の後追い研究ではなく、当該分野の専門家を唸らせるオンリーワンの研究に取り組んで頂きたいものです。

学内連絡先

TEL : 0836-85-9515

E-mail : hamamoto@yamaguchi-u.ac.jp



遺伝子診断システム図

私の研究

中国の物語文学研究



阿部 泰記 教授
大学院東アジア研究科 比較文化講座

人物と言葉

私は中国の物語文学を研究していますが、キーワードのひとつは、人物の口から直に発する「言葉の研究」です。なぜならば直接人物の口から発せられる言葉は感動を人に伝えることができ、物語の中ではとても重要な役割を果たしているからです。

紀元前の中国において、孔子は易・書・詩・礼記・春秋という5種類の経典を編纂しました。その中では堯（ぎょう）・舜（しゅん）・禹（う）など古代の聖人の言葉をそのまま記録しています。こうした聖人は物語でいえば主人公です。

たとえば書経では、殷（いん）の高宗が夢でさがしあてた傅説（ふえつ）という賢者に、「朝夕、誨（おし）えを納（い）れ、台（わ）が徳を輔（たす）けよ」と謙虚に忠言を求めますと、傅説は高宗に答えて、「惟（こ）れ木は繩（なわ）に従えば正しく、后（きみ）は諫（いさ）めに従えば聖なり」とたとえを用いながら進言しています。古代の言葉では少し難しい漢字を用いていますが、簡単に翻訳すると、「いつも教え導いてほしいという君主に対して、私の忠言を聴き入れれば優れた君主になりますよ」と打てば響くように臣下が即座に答えているのです。

君臣の結びつきは、『三国志』でも劉備と諸葛亮のように物語の読者にとって大きな関心事です。そして彼らの結びつきはその結合の強さを証明する一番よい手段として、古代の経典には言葉がそのまま記録されているのです。その点では書経は物語の原

点だといえるでしょう。

言葉と詩歌

言葉は長く引き延ばすことで、より強く感情を盛り込むことができます。それが詩歌です。詩経の序文には「天地を動かし、鬼神を感ずるは、詩より近きはなし」と定義しています。

詩経は周代の15ヶ国の民衆のうたをそのまま記録しています。たとえば魏の国には「陟岵」（丘に登る）という詩歌があります。「あの丘に登って、遠くの父を眺める。父は言う、『ああ我が子よ、労役に休みはない。身体に気をつけて、必ず帰って来いよ』と。」この詩は序文に「孝子が労役に駆り出され、父母を思念する」と説明していますように、労役で故郷を離れた男子の悲哀を唱っています。序文に人物名など具体的な内容を与えると、立派な物語になるでしょう。中国社会は家族を大事にする社会であり、別離した家族が愛情を確かめあう詩としてこの詩はたいへん有名です。そしてこの詩の中でも、父親は息子に直に話しかけることによって愛情を直接伝えているのです。

このように詩歌には悲哀などの感情を強調する力を持ち、それゆえに物語にはよく取り入れられて人物の感情描写に効果を発揮しています。たとえば『史記』の中には戦国時代楚の国の伍子胥の伝記を載せています。伍子胥は楚の平王に父兄を殺されて逃亡し、後に呉の国の軍隊を借りて楚に復讐をします。家族主義の中国社会においてこの伝記はよく読まれ、後に物語となるのですが、伍子胥はいつの間にか詩人となって、その哀しみを増幅させ、聴く人を感動させるのです。「子胥は怒って嘆息す、男子は災禍になぜにあう。法の網ははりめぐり、あわてて逃げる場所もなし。飢えて食べる物はなく、荒野はつづき伴侶なし。遠くの大河は風波たち、山岳そびえて空をつく。」

かくて人物の歌唱を取り入れて、感動的な物語がたくさん創作されました。中でも悲劇に名作が見られ、元の関漢卿（かかんけい）の『竇娥冤（とうがえん）』は有名です。

詩歌の応用

上述のように人物の口から直接出た言葉は、飾らない真実の気持ちを表現するために重視されてきました。そして言葉には二人が交わして気持ちを確認しあう作用と、一人で独白して哀しみなどの感情を吐露する作用がありました。

最近私は中国の湖北省の漢川という町に行って「善書」という物語文学を調査していますが、この文学も詩歌を用いて人物の率直な気持ちを表現しており、二人で感情を確認しあう場面と、一人で悲哀を述べる場面とを設定しています。たとえば『法堂

換子』は、後妻が自分の子を犠牲にして冤罪を被った先妻の子を救うという感動物語であり、後妻がわが子に兄の身代わりになるよう言い含める場面は詩歌で表現されます。「ああおまえ、わが息子、話をお聴き。聴いたなら、絶対に、許しておくれ。」「母さんの、お話は、よくわかりました。わたくしは、兄さんのため、死刑を受けます。」このように「善書」では詩は口語体であり、悲劇的な雰囲気をよく出しています。

以上述べましたように、最近の私は現代を古代と連続する時代として考え、古代の文献と現代の調査をおりまぜて中国の物語文学の研究を行っています。



漢川における善書の上演
(筆者撮影、2006. 2. 2)



春節の善書上演記念写真
(筆者撮影、2006. 2. 2)

学内連絡先

TEL/FAX : 083-933-5260

E-mail : abey@yamaguchi-u.ac.jp

教員から寄せられた著書

食育の本質を語る

「食事は愛のハーモニー — 食事で子どもは変わる — 」

(東京書籍 (株) 2006年1月10日発行)

平成17年6月に、「食育基本法」が国会で成立し、学校現場にも、様々な形での「食育」が怒濤のように押し寄せてきています。私は、過去二十数年間、ずっと学校の教育現場における「食育」にかかわり続けてきましたが、この大きなうねりの中で、今、一抹の不安を感じています。それは、「食育を通して私たちが子どもたちに本当にメッセージしなければならない本質の部分」が置き去りにされたままになっているのではないかと、ということです。



本書は、そのような考えから、「食育は、子どもにとっての『食事の本当の意味』を理解させるところから始まる」という食育の基本とすべき姿を提起したもので、学校・幼稚園・家庭などで、子どもの食育にかかわっている教師や保護者などすべての人に、是非、読んでほしい本です。

私は、「母親が赤ちゃんに授乳している姿」を「子どもの食事の原風景」ととらえていますが、この原風景の中に込められた「食事は、親と子の愛情の交換—食事は愛のハーモニー—」というメッセージこそ、食育の本質だと考えており、本書では、その意味を教育的、科学的根拠を踏まえながら、分かりやすい言葉と文章で解説しています。



また、食育の三つの重要な視点(①食事の在り方、②子どもと栄養、③食の安全性)を「子どもの食の三輪車」と名付け、その三つの視点の一つひとつから、「現代の子どもの食生活に見られる諸問題」について、科学的根拠をもとにしながら、分かりやすく解説しています。本書は、教育学部で栄養学の教育・研究を担当し、また、現在、附属小学校長として直接、子どもたちの教育にもかかわっている私が、長年、食育関連の講演で語り続けてきたことを本としてまとめたもので、他の類書にはない内容も多く掲載しています。「食育とは命を教えること」です。将来、幼稚園・小学校・中学校の教師をめざしている学生の皆さんにも、是非、読んでほしい本ですね。

山田 次郎 教授 教育学部 生活健康科学コース
(教育学部附属山口小学校校長併任)

TEL : 083-933-5407 E-mail : jyamada@yamaguchi-u.ac.jp

『貿易・貨幣・権力——国際経済学批判』

(法政大学出版局 2006年4月発行)

「船が難破し、3人の学者が無人島に漂着した。食料は、見渡すかぎり、沈没船から流れついた缶詰しかない。3人は、缶詰を開ける方法を話し合った。物理学者は言った。この木の上から適切な角度で缶を投げて岩にぶつければ、衝撃で缶は開くだろう。化学者が反論した。いやいや、海水を利用して缶のフタを腐食させた方がいい。すると、経済学者が呆れたようにこう言った。『あなたがたは問題を難しく考えすぎる。この問題は次のように簡単に解決できる。まず、ここに缶切りがあると仮定しよう……』」。



これは、経済学者をからかった有名な小話です。経済学を研究する者としてたいへん残念に思うのは、この揶揄が、たんなる冗談ではまずまず、だいたいにおいて本当だという点です。現在の主流の経済理論(「新古典派経済学」)は、現実の世界経済からかけ離れた特殊な仮定のみにもとづいて演繹的論理を展開するものとなっています。



本書は、新古典派経済学のこの難点を、国際経済学の分野に照準を合わせて批判した書物です。主要な批判は、自由貿易の利益を論証したとされる「比較優位の原理」が、国際経済を物々交換と捉えており、貿易収支均衡と完全雇用という「特殊な場合」のみを説明する脆弱な論理にすぎないという点に向けられます。貨幣抜き貿易理論、権力的要素を捨象した国際通貨の把握は、現代のテキストブックのなかで通説として反復されていますが、本書では、これらの非現実的な諸仮定が、いかなるプロセスで標準的理論として慣習化されていったのかを学説史のなかで追跡しています。

こうした学問的な検証は、グローバリゼーションの名のもとに、単細胞な理論を権力者に都合のよい政策に直結させる風潮が世界を覆い尽くしつつある現在、ますます重要な意味をもつと考えています。

田淵 太一 教授 経済学部 国際経済学科

TEL : 083-933-5545 E-mail : ttbuchi@yamaguchi-u.ac.jp

教員から寄せられた著書

『アジアの開発と貧困：可能性、女性のエンパワーメントとQOL』

(松井範惇・池本幸生編著 明石書店 2006年4月20日発行)

「経済開発」だけを進めることは途上国の望ましい開発の達成になるのでしょうか。低所得を貧困とみなす考えからは、真の理解は得られず正しい国際協力・援助には結びつかないのではないでしょうか。本書は、こういった基本的なアイデアのもとに、アマーティア・センの「人間開発」という開発思想の基本となっているケイパビリティ（可能性）概念を中心に、アジアの開発と貧困に関する研究をまとめたものです。



人間開発とは、人々が自由で真に豊かな生を生きて行くために教育や医療、その他の生活環境をも整えていくことと言えるでしょう。そのことに直接に注目するアプローチでもあります。ケイパビリティとは、一人一人の持つ生きる力を最大限発揮出来るようにすること、個々人の「なりたいたいもの、達成したいこと」を実現する力を指します。それを本書では「可能性」と呼んでいます。

開発・可能性・貧困という基本的な考え方の再検討を行う第1部のあと、第2部の女性のエンパワーメントに関しては、韓国の女性非正規労働、マレーシアの女性の地位、マイクロクレジットの役割、バングラデシュの物乞いプログラム、バングラデシュの貧困女性の貯蓄行動が議論されています。第3部の人々の生活の質QOLに関しては、インドネシアの人間開発、バングラデシュの都市集中、タイの地方間格差、中国農村のNGO活動、マレーシアの住民移転が論じられています。



本書は、山口大学大学院東アジア研究科の研究プロジェクトを中心に、アジア・アメリカ・オーストラリアなど9カ国の研究者15人の研究を、14の章にまとめたものです。本書の刊行については、山口大学経済学部創立100周年記念事業の一つとして出版助成を頂きました。

松井 範惇 教授 大学院東アジア研究科 社会動態講座

TEL：083-933-5530

E-mail：npmatsumi@yamaguchi-u.ac.jp



体育館付近	第一学生食堂 ボーン ランチタイム 風景	部活動・ サークル 活動の様子
研究発表 の様子	今年の七夕祭の 様子	総合図書館 付近
今年の七夕祭 の様子	部活動・サークル 活動の様子	昨年の 七夕祭 の様子

表紙デザイン

人文学部 教授 坪郷 英彦

平成18年度公開講座のお知らせ

講座名	受講対象者	開講期間	時間帯
健康作りのための運動指導講座 講師：森田俊介・塩田正俊・杉浦崇夫・丹 信介（教育学部教授）、 曾根涼子（同助教授）、宮田浩文（大学院医学系研究科教授）、 上田真寿美（同講師）、河合洋佑（山口大学名誉教授）、 松本耕二（山口県立大学助手）、矢野道代（矢野健康体操研究会）	地域の運動指導者 や各種学校において健康教育に携わっている方など	5/27、6/17、7/8、 11/11、12/9、1/13	13:00～17:00
小麦栽培から始めるパンづくり 講師：高橋 肇（農学部教授）、中司祐典（山口県農業試験場）、 嘉村則男（農学部技術職員）、徳永 豊（スリーヒルズアソシエイツ）、 安藤真美（山口県立大学助教授）	市民一般 (成人対象)	5/31、8/23、 11/8	10:00～15:00
2006年小・中学校教員のための英語・国際理解指導者研修会 講師：ジュディス=ジョンソン（大学院理工学研究科助教授）、 赤木彌生（国際センター講師）、重枝知紗（工学部技術職員）、 松本礼子（大野東中学校教員）	小・中学校教員及 びテーマに関心のある方	8/2～8/4	10:00～16:00
理科実験講座 講師：池田幸夫・村上清文・阿部弘和（教育学部教授）、 源田智子・北沢千里（同講師）、杉村智幸（八坂小学校教員）	小・中学校教員	8/7～8/8	9:00～16:00 予定
木工入門 講師：岡村吉永（教育学部助教授）	市民一般 (小学生以上) ※小学生は保護者同伴	8/11～8/13	8:30～13:00
農山漁村での安らかな暮らしを願って、柿本人麻呂を祀る 講師：吉村 誠（教育学部教授）、高山宣道（八幡人丸神社宮司）	市民一般	9/30、 10/1	15:00～17:00 10:00～12:00
ヒューマンスクールⅧ「山口の美術史」 講師：河野通孝（山口県立美術館普及課長）、齊藤郁夫（同学芸課長）、 岩井共二（同専門学芸員）、 石崎泰之（山口県立萩美術館・浦上記念館主任学芸員）、 菊屋吉生（教育学部教授）	市民一般	10/4、18、11/1、 15、29、12/13	13:30～15:00
神経系の老化「どのように予防するか、どのように治すか」 講師：内藤克輔・渡辺義文・田口敏彦（大学院医学系研究科教授）、 根来 清（同助教授）、加藤祥一・川井元春（医学部附属病院講師）	市民一般	10/2、16、23、 30、11/6、13	19:00～20:30
やまぐちサタデー・カレッジ2006 異文化交流コース 「異文化理解のための第一歩」 講師：乾 秀行・ジョン=フィリップス（人文学部助教授）	市民一般・学生	10/7～11/25 (毎週土曜 計8回)	13:30～15:00
やまぐちサタデー・カレッジ2006 外国語学習コース(ドイツ語)「ハイジの世界」 講師：フランツ・ヒンターエーダー=エムデ（人文学部教授）	市民一般・学生	10/7～12/2 (11/11を除く) (毎週土曜 計8回)	15:10～16:40

山口大学エクステンションセンター

〒753-8511 山口市吉田1677-1

TEL(083)933-5059 FAX(083)933-5154

E-mail:kyoutu@yamaguchi-u.ac.jp

お問い合わせ

・電話受付の場合：月曜～金曜 8:30～17:00
(土・日・祝祭日は除く)

新聞掲載された山大・地域から見た山大

5月

- ◆ シニアサマーカレッジ
 山大が今夏開講 – JTBと共同 –
 (山口:5日、サンデー山口:14日)
- ◆ 山口の大学生92% – 就職内定率 –
 中国5県労働局調べ 13年ぶり90%台
 (中国:9日)
- ◆ **研究室から** 山口大経済学部 横田研究室
 就業構造を『日韓比較』
 ジェンダーの視点から迫る (毎日:10日)
- ◆ 健康状態関心持って
 山大付属病院 測定や相談催し
 (山口:10日)
- ◆ **患者の“見守り隊” 開発**
 – 山大工学部の浜本教授 –
人物行動理解システム
 24時間稼働 コンピューターで分析
 (宇部日報:10日)
- ◆ 山大マンドリンクラブ
 スプリングコンサート
 (サンデー山口:12日)
- ◆ 来月から市民向けライフプラン講座
 山大、受講者募集 (山口:12日)
- ◆ やまぐち地学散歩
 山口県で一番古いもの
 4億年以上の片麻岩
 – 山大理学部教授 加納 隆 – (中国:16日)
- ◆ 宇宙を学ぶ教室など
 山口大学公開講座
 (サンデー山口:14日、山口:26日、朝日:6月8日)
- ◆ 山口の文化や自然 – 山大と県立大の22人 –
 10ヵ国留学生学ぶ (山口:14日、中国:15日)
- ◆ 山口大は3位
 中国大学野球2部 (朝日:16日)
- ◆ 山大生と田植えで交流
- ◆ 阿東の生雲小児童 フレンドシップ事業で
 (山口:16日)
- ◆ 乳がんと上手に付き合う方法など
 – 山大が来月講座 – (山口:16日)
- ◆ 「夢と活力ある山大に」
 丸本学長が就任会見
 (読売・朝日・中国・山口・毎日:19日)
- ◆ **教育** 「国立大の後援会に寄付必要？」
 法人化で財政難 実質学費に (朝日:21日)
- ◆ 「出前」の内容紹介
 – 山口大エクステンションセンター –
 理学、福祉など6分野268講義
 (宇部日報:23日)
- ◆ 自然光に近い白色LED
 – 山口大田口教授グループ開発 –
 内視鏡への応用効果期待 (朝日:24日)
- ◆ 「やまぐちLED研究会」始動
 県内の29社がスクラム 新製品・事業を創出
 山大工学部 田口教授が実用化
 「超高演色性白色」を活用
 (宇部日報・朝日・山口:25日、西日本:28日)
- ◆ シニアサマーカレッジ
 6月5日 山口大大会館で説明会
 (宇部日報・山口:26日)
- ◆ 教育現場の知識伝授
 「教職への意欲育てたい」
 旧須金中教頭の霜川さん山口大助教授に
 (中国:27日、毎日:6月15日)
- ◆ 古代米、大きくなーれ
 – 埋蔵文化財資料館公開講座 –
 山大農場で親子ら苗植え
 (山口:28日、中国:29日)
- ◆ **「大学コンソーシアムやまぐち」発足**
 11教育機関が共同取り組み
 高校との連携、単位互換など
 (読売:31日、宇部日報・山口:6月1日、中国:7日)

(山口:21日)

6月

- ◆ 山大メディアセンター表彰
広島で電波の日式典 (山口:2日)
- ◆ シニアサマーカレッジ -山大- (山口:21日)
5日に事前説明会 (山口:2日、朝日:6日)
- ◆ 力の限り記録挑戦
山口 陸上競技選手権に880人 (中国:5日)
- ◆ 携帯端末で観光客調査
山口大経済学部、実用化へ
経路や滞在時間把握 (中国:6日)
- ◆ 17日、山大医学部卒後臨床研修センターが初の
セミナー開催 (宇部日報:6日)
- ◆ 農村開発と地域おこし
10日、山大でシンポジウム
(サンデー山口:7日)
- ◆ 大学生、英語で熱弁
山口大 姫山杯ディベート大会
(山口大文化会 E S S 主催)
(読売:12日)
- ◆ 隣近所の信頼構築訴え
山口で防災・減災フォーラム
山口大学院山本哲朗教授基調講演
(中国:12日)
- ◆ 山大などが現地調査へ
ジャワ島地震被害原因探る (山口:16日)
- ◆ ● 山 口 ニュースと情報
コーヒー飲んで国際交流
山大留学生がカフェオープン (読売:19日)
- ◆ 本誌論説委員山大で講義
総合科目「キャリアと就職」
テ ー マ「新聞の読み方・作り方」
(読売:21日)
- ◆ 寄 稿 教育改革
原点に戻っての改革を期す
山口大学大学院理工学研究科教授・山本哲朗
- ◆ 盛り土内の水位上昇 -岩国の県道豪雨で崩落-
検討委検証複合的要因 設計は問題なし
(委員長・村田秀一山口大副学長他)
- ◆ 日本台湾植民地時代の美術教育 (朝日:22日)
- ◆ 10月「異文化理解のための第一歩」
-山大公開講座- (山口:22日)
- ◆ 柿本人麻呂を祀る
山大講座参加者募集 (山口:23日)
- ◆ 版画や絵本など30点
あすまで山口 山大美術部作品展
(山口:24日)
- ◆ 地震や台風 防災法学ぶ
玖珂の小学校で山口大教授授業
-山口大大学院の山本 哲朗教授-
- ◆ 英国社交ダンス踊り方教えます
-山大公開講座- (山口:27日)
- ◆ 「エイズカフェ」1日、抗体検査も
-山大の七夕祭で- (山口:27日)
- ◆ 山口大学で講演会
台湾植民地時代の美術館
(サンデー山口:28日)
- ◆ 食感もちもち県産小麦パン -山大公開講座-
(山口:29日、中国:30日)
- ◆ 宇部市の野外彫刻美術館賞
松本 薫さんの「風の予感III」
山大医学部に設置
微風でもゆっくり回転 人々に潤いと安らぎ
(西日本・毎日・山口・朝日・読売・宇部日報:29日)

編集後記

今回の特集「オープンキャンパス」では、山大生の学生生活の一部を紹介させていただきました。授業や研究室の様子、クラブ・サークル活動、自由時間の使い方など、山大生の学生生活の一端が窺えれば幸いです。できれば山大を訪ねられて、直に肌で感じ、その雰囲気味わってほしいと思います。でも何年か暮らしてみても初めてその土地（大学）のよさ分かるものかもしれません。また、今回の特集号では、学生生活で身近にお世話になっている学内施設についても取り上げました。キャンパスマップをたよりに探してみてください。これらの施設は、山大生の学生生活を支えてくれる重要な生活空間でもあり、何か見えてくるかもしれません。

さて、今回の特集号のサブタイトル「共に育む 山口大学」は、丸本卓也新学長のめざす教育『大学教育＝共育』から、つけさせていただきました。今回の特集からその姿が少しでも捉えられたらと思っております。

今、山口大学では学生と教職員が一丸となって、この『共育』を実践しようとしています。さあ、山大を訪ねて来てください。

(塩田 正俊)

©山口大学 Web ページ <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口大学広報第八十号

平成十八年七月三十一日発行

編集発行 山口大学広報戦略委員会

(総務部 総務課)

住所：山口市吉田一六七七一

電話：(083) 933-5007

FAX：(083) 933-5013

E-mail sh011@yamaguchi-u.ac.jp

印刷：コロニー印刷

広報戦略委員会委員

村田 秀一 (企画広報担当副学長)

福田 隆眞 (教育学部 広報担当副学長補佐)

平野 芳信 (人文学部)

塩田 正俊 (教育学部)

河野 眞治 (経済学部)

白石 清 (理学部)

武藤 正彦 (医学部)

浜本 義彦 (工学部)

中市 統三むねかず (農学部)

長畑 実 (大学教育機構)

瀧本 浩一 (産学公連携・創業支援機構)

糸長 雅弘 (大学情報機構)

杉井 学 (大学情報機構)

田中 均 (アドミッションセンター)

井上 重巳 (事務局)

平田 博教 (事務局)